



特集 スポーツリハビリテーションコース これまでの歩み

- 4 News&Topics
- 8 新任教職員紹介
- 9 令和8年度入試結果/令和8年度学生在籍者数
- 10 学友会役員紹介/クラブ・サークル活動
- 11 新入生インタビュー
- 12 決算・予算・事業報告・事業計画

- 18 令和7年度 著書論文歴
- 23 令和7年度 学会発表
- 31 国際交流/Library/基本理念/教育目標/将来ビジョン
- 32 令和9年度 入試概要/熊保大夢基金/オープンキャンパス

スポーツリハビリテーションコースこれまでの歩み

「健康」「スポーツ」をキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材の育成を目指して、スポーツリハビリテーションコースが開設されました。2022年度のスタートから4年。学生の成長、教育内容の充実、地域との連携など、多方面で成果が生まれています。本特集では、その歩みを振り返ります。

これまでの歩み

1年目:カリキュラム開始、初年度学生の様子

本コースが開設され、特色ある教育プログラムがスタートしました。当初は1年次後期後半に選抜試験を実施し、選抜された学生が2年次以降に本コース独自のカリキュラムを履修していました。初年度の学生たちは新しい学びへの期待を胸に、試行錯誤を重ねながら授業や実習に取り組み、本コースの基盤づくりを支えました。



2年目:実技科目の拡充、地域連携の開始

トレーニング理論やデータサイエンスに関する実技・演習科目を充実させ、科学的根拠に基づいてトレーニングプログラムを立案・実践できる力を養う教育を展開しました。あわせて、2年次後期からは中・高校生アスリートへのトレーニング指導を開始し、トレーナーとして必要な知識・技術・人間力を育んでいます。

さらに、プロスポーツチームのフィールドテストに測定員として参加し、測定だけでなく結果のフィードバックやデータに基づくトレーニング提案にも携わる機会を得ました。



3年目:外部活動(大会サポート・測定会など)の本格化

学内で培った知識や技術を地域や競技現場で実践する機会がさらに広がりました。水上村で実施された強豪校陸上駅伝部の合同合宿では、負傷選手を中心としたトレーニング指導を担当しました。また、天草地域の中学校陸上部では、フィールドテストからトレーニング指導までを本コースの学生が中心となって実施し、地域スポーツへの貢献とともに、現場で求められる実践力を養う貴重な経験となりました。



4年目:初の4年生が卒業、実習・研究の成果、就職実績

本コース初の卒業生を送り出し、医療機関やスポーツ関連企業、自治体など多様な進路を切り拓くとともに、「熊保スポーツプロジェクト」で高校生へのフィールドテストや指導までを本コース学生が中心となって担当し、地域スポーツへの貢献を深めました。加えて、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成認定校として、JSPO-ATを育成する「ATプログラム」(定員10名)を新たに開始しました。これに伴い、本コースの定員を20名から30名へ拡充するとともに、教育体制を見直し、より早い段階から専門性を高められる環境を整備しました。



5年目:今年度の現状

これまで培ってきた教育・実践・地域連携を基盤に、本コースの教育活動はさらに発展しています。ATプログラムも本格的に始動し、学生は学内での学びと地域スポーツ・競技現場での実践を通して、専門性と実践力を着実に高めています。また今年度からは、JATI-ATI資格取得を目指す学生に対しても学外実習の機会を拡充し、多様な現場で学べる教育体制を整えています。今後も地域との連携を一層深め、科学的根拠に基づく実践力を備えた理学療法士に加え、JSPO-AT、JATI-ATIなどの資格取得を目指す人材の育成を推進していきます。



Message

本コースの立ち上げにあたり、カリキュラム整備や教育体制の構築には多くの時間を費やしました。一方で、学生に十分な実践の場を提供できるのかという不安もありました。

しかし、その不安を大きく変えてくれたのは学生たちでした。学内での学びに真摯に取り組むだけでなく、学外での実習や地域活動にも積極的に参加し、一つひとつの経験を自らの成長につなげてくれました。1・2期生は期待を超える成長を遂げ、本コースの礎を築いてくれました。卒業後は、それぞれが医療やスポーツの現場で活躍しており、教員としては今後も成長を見守り、必要な時に支えられる存在でありたいと考えています。そして、先輩たちが築いた伝統を受け継ぎ、さらに発展させていく学生がこれからも育つことを心から願っています。



リハビリテーション学科
理学療法専攻長

久保下 亮准教授

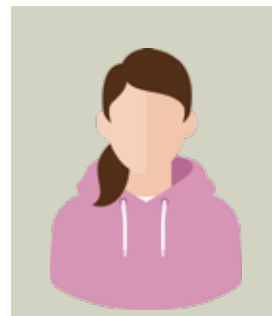
Voice

入学してからの4年間で、リハビリだけでなくスポーツの専門知識や指導技術を身につけ、スポーツを見る視点も大きく変わりました。

授業では自分でトレーニングメニューを作り、仲間に指導する実技が特に印象的で、声かけやコミュニケーションの大切さを実感しました。

地域連携では試合の救護や体力測定、プロ選手のサポートなどを経験し、現場の緊張感や責任感、選手との信頼関係づくりの重要性を学びました。

将来はスポーツ分野で理学療法士として専門性を発揮し、動作分析などのデータを活かしながら選手の競技力向上や障害予防に貢献できるトレーナーを目指しています。



大学院保健科学研究科
リハビリテーション領域1年

Aさん

Results

地域連携件数：2025年度は33回のイベント数(12連携事業)

大会サポート・測定会の実績(2025年度)

- ・熊本ビューストピンディーズのホームゲームのサポートおよびフィールドテスト2回実施。
- ・熊本ヴォルターズのフィールドテスト1回実施。
- ・熊本ヴォルターズユースチームのフィールドテスト2回実施。
- ・鶴屋女子バスケットボール部のフィールドテスト1回実施。
- その他多数。

資格取得状況

- ・スポーツリハビリテーションコース1期生→JATI-ATI(20名受験、20名合格、合格率100%)
- ・スポーツリハビリテーションコース2期生→JATI-ATI(19名受験、19名合格、合格率100%)

就職状況

スポーツリハビリテーションコース1期生(PT専攻16期生)の就職状況

- | | |
|---------------------|-------------|
| ・総合病院 7名 | ・一般企業 2名 |
| ・整形外科(スポーツ)中心の病院 6名 | ・本学大学院進学 3名 |
| ・市町村職員 1名 | |

Future

本コースは完成年度を迎え、JSPO-ATプログラムを中心に高度な現場実習を充実させながら、すべての学生がより多くの実践経験を積める教育環境の強化を進めています。学内外のトレーナー活動や実習先の拡充、S&C(ストレングス&コンディショニング)分野の学びの深化を図り、医療・スポーツの現場で活躍できる人材育成を推進しています。地域スポーツとの連携もさらに広がり、トップチームから子どもたちまで幅広い世代を支える取り組みを展開し、学生は資格取得の学びと実践活動を通して専門性を高めています。今後は、受傷から競技復帰・競技力向上までを一貫して支援できる「理学療法士+トレーナー」の育成を目指し、応急処置やリコンディショニング、トレーニング指導を統合的に学べる実習体制と、傷害予防・パフォーマンス向上をテーマとした研究を推進し、教育と地域スポーツへ還元していきます。

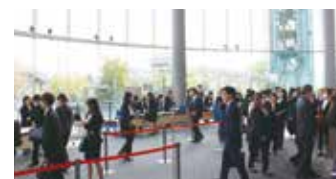
News & Topics

令和8年度 入学式 志高く 454人 仲間入り

令和8年度の入学式が4月2日(木)、熊本市中央区の熊本城ホールであり、学部、大学院など合わせて454人が入学しました。

昨年度までの市民会館シアーズホーム夢ホールから会場を移しての開催となりました。竹屋元裕理事長・学長が学部学科、大学院、専攻科ごとに入学許可宣言。引き続き式辞に立ち、「本学への第一歩は、自らの人生に責任を持ち、社会に貢献する医療専門職として歩むことを選んだ決意の表れ」と述べました。また、大学を「人生の設計図を描く場」とし、「それぞれの個性を生かしつつ、皆さん独自の設計図を完成させてほしい」と語り掛けました。

熊本県看護協会の本尚美会長の来賓あいさつに続き、新入生を代表して平野華紅さん(看護学科)が「この入学の感激を忘れることなく、熊本保健科学大学の学生としての誇りを持ち、実りある学生生活を送ることを誓います」と力強く宣誓しました。



令和7年度 卒業式・修了式 巣立ちの春 399人はばたく



令和7年度の卒業式・修了式が令和8年3月14日(土)、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールで開催され、学部卒業生と大学院、公衆衛生看護学専攻科、助産別科の修了生計399人が社会へと巣立っていきました。

卒業生・修了生の内訳は、学部342人、大学院16人、公衆衛生看護学専攻科20人、助産別科21人。

式典では、竹屋元裕理事長・学長が学科や研究科の代表に学位記や修了証書を授与した後、成績優秀者と酒匂賞受賞者を表彰。引き続き、式辞に立ち、『不確実性の時代』『予測のできない時代』だからこそ、人の命を守る医療の価値は決して変わることはありません。世の中の変化に惑わされることなく、医療人としての自らの役割を見据えながら歩んでほしいと述べました。

熊本市医師会の園田寛会長の来賓祝辞の後、在校生を代表して学友会会長の井川陽仁さん(リハビリテーション学科理学療法専攻3年)が先輩方へのねぎらいと感謝の気持ちを込めて送辞。野見山梨子さん(看護学科)が卒業生代表として登壇し「本学で培った知識と技術、そして『人を想う心』を胸に、熊本保健科学大学の卒業生としての誇りを持ち、生死と向き合う医療に携わる者として誠実に歩み続けることを誓います」と答辞を述べました。

式典前後の会場周辺は、スーツや袴姿の卒業生・修了生が花束などを手に家族や友人、後輩などから祝福を受けるいつものシーンがあちこちで見られました。

JR九州連携企画「筋トレイン」発車！ 動く列車内でトレーニング体験



JR九州と本学が産官学連携で企画した「筋トレイン」が令和8年2月7日(土)に開催され、県内外から参加した15名が、特別貸切列車での動くフィットネスを体験しました。熊本駅一大牟田駅間を往復する約4時間のツアーでは、「観光×健康×地域資源」をテーマに、列車内ならではの環境を活かした多彩なプログラムが展開されました。

当日は、久保下亮准教授と枝尾久美講師の引率のもと、本学トレーナー部の学生9人がインストラクターとして参加し、ストレッチや体幹トレーニング、障害物リレー、プッシュアップ選手権など、参加者と一緒に指導を行いました。折り返し地点の大牟田駅では、タンパク質を意識したランチ交流も実施され、健康づくりと地域交流を両立した内容となりました。

阿蘇プロジェクト成果報告会を実施



令和8年1月20日(火)、阿蘇市一の宮保健センターにて、「阿蘇プロジェクト成果報告会」を開催しました。これまでの測定会に参加された地域住民の皆さまを迎え、阿蘇中央高校の生徒による成果発表および本学教員による2回の測定結果を踏まえたフィードバックを実施しました。前半では、生徒たちが高齢者の健康増進をテーマに、運動メニューの提案や栄養素を考慮した1週間の献立の立案について発表しました。後半では、本学リハビリテーション学科3専攻の教員による、測定会1回目と2回目の結果を比較したフィードバックが行われました。

理学療法専攻からは、宮崎宣丞助教による歩く速さや握力などの「運動」の結果についての説明とともに、健康寿命延伸の取り組み例として阿蘇市介護予防体操を、作業療法専攻からは、宮田浩紀講師による「社会参加」の結果から、現状の把握をしたうえで、フレイル予防や認知機能向上の重要性を、言語聴覚専攻からは、松原慶吾准教授による「栄養(食事)」の結果に関する説明と口腔体操などの予防活動を継続する意義についてそれぞれ説明されました。

卒業から1年 笑顔で再会 久しぶり、元気かい(会)



卒業後1年同期会「久しぶり、元気かい(会)」が令和8年3月7日(土)、本学レストラン・ピリアで開催されました。

当日は、卒業生アンケート結果の発表に続き懇親会を実施し、パーティーメニューを楽しみながら、卒業生と教職員が互いの近況を語り合いました。会の中盤には竹屋元裕理事長・学長が率いる「西里ブラザーズ」によるライブパフォーマンスが行われ、会場は大いに盛り上がりしました。その後、理事長・学長賞をはじめとする豪華景品が当たるビンゴゲームが行われ、最後まで熱気に包まれた時間となりました。

品質保証・精度管理学共同研究講座 退任の蛭田特命教授が最終講義



令和7年度で終了する「品質保証・精度管理学共同研究講座」の蛭田修特命教授が令和7年3月10日(火)、最終講義を行い、令和2年10月の講座開設からの研究の軌跡を振り返りました。

「医療用医薬品の安定供給と品質保証～熊本保健科学大での5年6カ月を振り返って」と題した講義で蛭田特命教授は、新型コロナウイルスがまん延する前後から表面化した医薬品の供給不足の要因として、海外に依存した不安定なサプライチェーンと、相次ぐ製薬メーカーの製造不正の2点を挙げました。

特に、製造不正については、「偶発的な不都合が放置され、常態化することによって不正になっていく」と指摘。個人も組織も「問題を適切に感知し、適切に対処する能力を強化することが大事」として、変容に向けた研究成果も披露しました。

「研究を続けてきて楽しくてうれしいことは、やってきた成果が国の制度に組み込まれていくこと」と蛭田特命教授。講演の最後には、熊本での5年余りの研究活動を振り返り、関係者への感謝の言葉が述べられました。

News & Topics

KUMAHO Staff Learning+ 「スタブラ」本格始動



令和8年度より、事務職員の専門性向上と組織力強化を目的とした新たな学びのプログラム「KUMAHO Staff Learning+ (通称：スタブラ)」をスタートしました。スタブラは、事務職員が気軽に参加し、学びを通じてつながりを広げていく「学びのコミュニティ」として育てていきたいという思いが込められています。

スタブラは、原則として毎月第3金曜日に定例開催し、偶数月は「クマホの未来創造チーム」、奇数月は事務局長が主催。業務改善のヒントとなるテーマから、部署を越えた交流を促す内容まで、幅広い学びの機会を提供していきます。

正式スタート後初回となる4月17日(金)は、入試・広報課の隈部拓朗さんが講師を務め、「大学の学生募集について」をテーマに開催しました。会場のキャンパステラス・コロシアムには多くの職員が集まり、学生募集の現状や広報活動の工夫などについて理解を深める有意義な時間となりました。

県サッカー協会などと包括連携協定 全国初 育成年代から継続し能力測定・分析



令和8年4月19日(日)、熊本県サッカー協会および熊本フットボールセンターと包括連携協定を締結しました。三者が人的・知的・物的資源を共有し、スポーツを通じて人材育成、競技力向上、および地域社会の発展に寄与することを目的としています。

大学と都道府県サッカー協会による連携はこれまで例がありますが、本学が持つスポーツ医科学分野の知見を、協会の「トレセン活動(選抜育成活動)」と具体的なかつ継続的に結び付ける取り組みは、全国初となる画期的な試みです。県の各育成年代のトレセンに所属する男女の小中学生約400人の体格、体力、運動能力などを継続的に測定・分析し、データを蓄積。現場の選手育成と学術的な支援をダイレクトにつなぐことで、より実践的で質の高い育成環境の構築を目指します。

締結式はKMバイオロジクスアリーナで行われ、県サッカー協会の藤山直秀副会長、熊本フットボールセンターの松下涼太代表取締役、本学の竹屋元裕理事長・学長がいさつ。竹屋理事長・学長は「この取り組みを通じ、世界で活躍する選手の育成に貢献するとともに、熊本で生まれたこのモデルを広く発信していきたい」と述べました。

健康危機管理体制の強化に向け連携 熊本県、熊本市と包括協定



令和8年5月8日(金)、熊本県および熊本市と「健康危機管理分野における包括連携協定」を締結しました。本協定は、三者が相互に連携し、専門人材の育成や有事の際の業務支援・検査協力などを通じて、地域の健康危機管理体制を強化することを目的としています。今後は、感染症のまん延等の健康危機が発生した場合に地域の保健師等の専門職が保健所等の業務を支援する仕組みであるIHEAT要員の養成や、調査研究、専門的知見の提供及び情報共有などを行っていきます。

県庁知事応接室で行われた締結式では、木村敬知事、大西一史市長、竹屋元裕理事長・学長が協定書に署名し、あいさつに立った竹屋理事長・学長は「学生がIHEAT要員となることで、平時から研修や実習を通じて実践的に学修し、有事にはその学びを地域社会で実践できる体制が整った。教育機関の立場としても今回の締結は大変意義深く、今後は教育・研究体制をさらに充実させ、いざという時に地域に貢献していきたい」と述べました。

菊陽町と「アーバンスポーツの科学的研究及び 健康増進に関する包括連携協定」締結



令和8年7月2日(木)、菊陽町と熊本保健科学大学は「アーバンスポーツの科学的研究及び健康増進に関する包括連携協定」を締結し、菊陽町役場で締結式を執り行いました。

本協定は、同町と本学が相互に連携・協力し、本学が有するスポーツ医科学および健康科学に関する専門的知見を活用して、アーバンスポーツ競技者に対する科学的支援をはじめ、住民の健康づくりや健康寿命の延伸に向けた取組を推進することを目的としています。さらに、アーバンスポーツに関する科学的研究や専門人材の育成を通じて、地域の活性化およびスポーツ振興に寄与することを目指します。今後は、本協定に基づき、「くまモンアーバンスポーツパーク」を世界水準の競技・研究拠点にするとともに、地域住民の健康づくりを支える拠点としての機能を高め、さらなる発展を目指します。

荒木栄一健康・スポーツ教育研究センター長、紫綬褒章を受章

令和8年4月28日(火)、政府より春の褒章が発表され、学術研究・芸術・スポーツなどの分野で顕著な功績を挙げた方に贈られる紫綬褒章の受章者として、本学健康・スポーツ教育研究センター長の荒木栄一特任教授が選ばれました。

糖尿病学の基盤を築いた研究者としての歩み



荒木センター長は、約40年にわたり糖尿病学の研究に携わり、国内外の研究者から高い評価を受けてきました。特に、糖尿病の発症や進行に深く関わるインスリン受容体遺伝子の転写調節機構の解明は、同分野における重要な成果として知られています。さらに、インスリン受容体から細胞内へ情報を伝達するシグナル分子であるIRS-1およびIRS-2を発見し、それらが糖尿病の病態形成にどのように関与しているかを明らかにしました。これらの発見は、糖尿病の理解を大きく前進させただけでなく、新規治療法の開発にも繋がる基盤研究として高く評価されています。

受章にあたり荒木センター長は、「長年の研究の中で、インスリン作用を細胞に伝える分子機構の一端を解明できたことを大変嬉しく思います。これまでの成果が糖尿病の予防や治療に貢献できることを祈念するとともに、今後も研鑽を重ねてまいりたい」と語り、研究者としての真摯な姿勢と探究心を示されました。

受章を記念し、特別講演会を開催

この受章を記念し、健康・スポーツ教育研究センターでは特別講演会を開催しました。当日は学内外から多くの参加者が集まり、会場は開始前から熱気に包まれていました。講演ではまず、紫綬褒章の概要や授与式当日の様子が紹介され、受章の重みと意義が伝えられました。続いて、荒木センター長が長年取り組まれてきた研究について、研究の着想、試行錯誤の過程、そしてIRS分子の発見に至るまでの道のりが語られました。専門的な内容でありながら、研究者としての挑戦や葛藤、発見の瞬間の喜びなどが丁寧に語られ、参加者は研究の奥深さと情熱に引き込まれていました。糖尿病学の発展に大きく寄与してきた研究の軌跡に触れ、会場全体が静かに耳を傾ける姿が印象的でした。



インスリンの作用メカニズムの解明
糖尿病病態の理解と新規治療法の開発のために

講師 荒木 栄一 特任教授

【日時】2026.6.19(金) 15:00~16:30

【会場】熊本県立大学 50周年記念館 1F 大ホール

〒861-5598 熊本県熊本市区和豊町325

懇親会では世代を超えた交流が広がる

講演後には懇親会が開催され、参加者同士の交流が活発に行われました。会場ではQRコードを用いてリアルタイムで質問を募集する企画が実施され、研究内容に関する専門的な質問から、学生時代の思い出や研究者としての姿勢に関する質問まで、多岐にわたる声寄せられました。荒木センター長は一つひとつの質問に丁寧に回答され、会場は終始和やかな雰囲気になりました。講演だけでは聞くことのできない素顔のエピソードも披露され、参加者にとっては研究者としての人柄に触れる貴重な機会となりました。



新任教職員紹介

ようこそ、熊本保健科学大学へ

医学検査学科

教授
大里 元美



これまで国内外で長がん研究に携わって参りました。熊本大では新薬・検査キットの開発を目指します。また、内科医として病院では本校卒業生にお世話になってきました。今後も良い医療人を輩出できるよう教育にも熱意をもって取り組みます。

医学検査学科

助教
草刈 大知



本学を卒業後、熊本大学大学院にて研鑽を重ね、再び戻って参りました。後輩達と共に学びあいながら、検査や実験操作の原理原則を知る大切さと面白さを伝え、今後厳しさを増す社会情勢にも柔軟に対応できる優秀な臨床検査技師を育成して参る所存です。

看護学科

教授
福岡 美和



4月に看護学科生看護学分野 母性看護学領域に着任いたしました。本学での新たな出会いを楽しみしながら、私にできることに一つ一つ取り組み、本学の魅力を自ら表現し発信できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科

准教授
本武 敏弘



今年4月に着任いたしました。看護学分野を専門とし、看護師のメンタルヘルスやワークエンゲイジメント、心理的安全性に関する研究に取り組んでいます。臨床・教育・研究の経験を活かし、実践に還元できる活動を目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

看護学科

助教
川本 紀子



基礎看護学分野の助教として着任しました。教育活動では、先生方のきめ細やかな学生支援に感銘を受ける毎日です。学生が知識・技術を習得するなかで、思慮と愛を併せ持った、より豊かな人間性を育てることができるよう、学びを支えてまいります。

看護学科

助教
田口 邦子



本年度4月より看護学科成人看護学急性期領域に着任いたしました。臨床を18年ほど経験し、6年間実習指導教員として臨床に即した教育に携わってまいりました。これまでの実習指導の経験を活かし、学生一人一人の成長を支援していきたいと思っております。

リハビリテーション学科 理学療法専攻

講師
中川 浩



2026年4月に理学療法専攻に着任いたしました中川浩と申します。これまでの臨床業務、研究所での研究業務、大学での教育業務の経験を活かして本学での教育・研究に挑戦していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

リハビリテーション学科 理学療法専攻

助教
野中 裕樹



4月よりリハビリテーション学科理学療法専攻に助教として着任しました野中裕樹と申します。専門は心臓リハビリテーションです。臨床・教育・研究をつなぐ実践を大切に、心臓リハビリテーションの視点から地域や生活を見据えた支援を目指しています。

リハビリテーション学科 作業療法専攻

助教
久木崎 航



整形外科および通所介護、地域での介護予防事業における臨床経験に基づき、作業療法の意義と可能性を広く発信してまいります。これより学生の皆さんと医療人に必要な研究と教育を実践していきたいと思っております。皆様のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

共通教育センター

講師
川村 淳一郎



共通教育センターに着任しました、川村です。これまでは国内外の大学や研究機関で、素粒子物理学の中でも実験データと理論をつなぐ現象論の研究に取り組んできました。本学では、情報系の科目を主に担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

助産別科

講師
牛島 輝美



4月1日付で着任しました牛島輝美と申します。これまで大学病院で勤務しており多くの母子とご家族のケアに携わってきました。臨床現場での命の誕生に関わる責任の重さと、助産師のケアがもたらす喜びを、これから学ぶ皆さんと共有したいと思っております。

キャリア教育研修センター

助教
島野 彩香



学生の頃から現在に至るまで、本学は私のキャリア形成に必要な不可欠な存在となっています。かつての学び舎で、今度は後進育成と研究面で本学に貢献できればと思います。臨床経験も活かしながら、学生と相互に成長できるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

医学検査学科

教務嘱託
金重 貴美香

前職は病院の検査技師です。特技はドクターヘリと防災ヘリひばりの音を聞き分けること。搬送される患者様の命の重みや搭乗するスタッフの空の安全その後の過酷な現場に思いを馳せて空を見上げてまいります。少しでも臨床に携わる心を伝えていけたらと思います。

看護学科

教務嘱託
藤本 佳菜子

本年2月より基礎看護学領域に着任いたしました。前職は看護師として大学病院に勤務しておりました。これまでの経験を活かしつつ、新たな場で経験を積み、教育者としての学びや成長を目指していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務職員

佐藤 睦

4月1日より事務職員として入職いたしました。新たな環境で、ご迷惑をおかけすることも多くございますが、皆様に助けていただきながら日々業務に従事しています。少しでも早くお役に立てるよう尽力してまいりますので、何卒宜しくお願いいたします。

事務職員

稲永 知之

本年5月より学務課に入職いたしました。これまで大学受験予備校に勤めてきましたが、学生を送り出す側での経験は大学でも活かせるのではないかと考えております。本学の発展に寄与できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務職員

篠崎 葵

5月より就職・実習支援課に入職し、主に実習関連を担当しています。前職は、幼稚園教諭として勤務しておりました。今後も人との関わりを大切にしながら本学の学生支援に貢献していきますよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校法人銀杏学園理事・監事・評議員一覧

(2026年7月1日時点)

理事長	理事	監事	評議員	評議員	評議員
竹屋 元裕	学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 理事長・学長	安高 純一郎	熊本保健科学大学 常勤監事	池田 夕希	助産別科同窓会 会長
榎原 真二	熊本保健科学大学 副学長	林田 喜一	税理士	園田 寛	熊本市医師会 会長
川口 辰哉	熊本保健科学大学 副学長	多久島 寛孝	熊本保健科学大学 保健科学部長	宮下 恵里	熊本県看護協会 会長
古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長	上仲 一義	熊本保健科学大学 医学検査学科長	米満 弘一朗	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
前田 ひとみ	熊本保健科学大学 大学院保健科学研究科長	田中 聡	熊本保健科学大学 リハビリテーション学科長	平井 俊範	熊本大学病院 病院長
福田 桐	社会医療法人愛育会 理事長	河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長	松下 修三	熊本大学ヒトトロウイルス学 共同研究センター 特任教授
副島 秀久	社会福祉法人恩賜財団 済生会支部熊本県済生会 支部長	勝木 康子	熊本保健科学大学 事務局第一部長	樹田 浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長
馬場 秀夫	一般財団法人 化学及血清療法研究所 理事長	原田 精一	医学検査学科同窓会 会長	町田 二郎	くまもと南部広域病院 病院長
高橋 洋匡	KMバイオロジクス株式会社 代表取締役社長	高橋 知恵美	看護学科同窓会 会長	馬場 哲	学校法人銀杏学園 顧問弁護士
高橋 毅	国立病院機構熊本医療センター 名誉院長	松本 耕史郎	リハビリテーション学科同窓会 会長	毛利 浩一	株式会社フードバール熊本 代表取締役

令和8年度 入試結果

学科	入試区分			募集人員	志願者	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率	
医学検査学科	総合型選抜 (リーダーシップ型)	エントリー	10	9	9	8	0.8	1.0		
		出願		8	8					
	学校推薦型選抜（指定校）			25	19	19	—	—		
	学校推薦型選抜（公募）			25	32	32	1.3	1.0		
	学校推薦型選抜（離島枠）			若干名	0	0	—	—		
	一般選抜（一般）			35	100	86	48	2.9	1.2	
	一般選抜（共通テスト利用・前期）			5	84	83	6	16.8	1.0	
	一般選抜（共通テスト利用・後期）			若干名	1	1	1	—	1.0	
学科合計			100	244	229	114	2.4	1.1		
看護学科	総合型選抜 (リーダーシップ型)	エントリー	10	26	16	10	1.4	1.4		
		出願		14	10					
	学校推薦型選抜（指定校）			25	20	20	—	—		
	学校推薦型選抜（公募）			25	67	30	30	2.7	2.2	
	学校推薦型選抜（離島枠）			若干名	0	0	0	—	—	
	一般選抜（一般）			35	158	86	37	4.5	1.8	
	一般選抜（共通テスト利用・前期）			5	87	47	9	17.4	1.9	
	一般選抜（共通テスト利用・後期）			若干名	4	2	2	—	2.0	
学科合計			100	350	195	108	3.5	1.8		
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	総合型選抜 (リーダーシップ型)	エントリー	9	21	16	10	1.7	1.5	
			出願		15	10				
		学校推薦型選抜（指定校）			15	13	13	—	—	
		学校推薦型選抜（公募）			15	33	17	17	2.2	1.9
		学校推薦型選抜（離島枠）			若干名	1	1	1	—	1.0
		一般選抜（一般）			17	79	36	26	4.6	2.2
		一般選抜（共通テスト利用・前期）			4	49	8	0	12.3	6.1
		一般選抜（共通テスト利用・後期）			若干名	1	1	1	—	1.0
		総合選抜型（社会人）			若干名	1	0	0	—	—
	専攻合計			60	192	86	68	3.2	2.2	
	作業療法学専攻	総合型選抜 (リーダーシップ型)	エントリー	6	8	8	8	1.3	1.0	
			出願		8	8				
		学校推薦型選抜（指定校）			10	11	11	—	—	
		学校推薦型選抜（公募）			10	9	9	9	0.9	1.0
		学校推薦型選抜（離島枠）			若干名	0	0	0	—	—
		一般選抜（一般）			11	29	26	13	2.6	1.1
		一般選抜（共通テスト利用・前期）			3	24	24	4	8.0	1.0
		一般選抜（共通テスト利用・後期）			若干名	0	0	0	—	—
		総合選抜型（社会人）			若干名	0	0	0	—	—
	専攻合計			40	81	78	45	2.0	1.0	
	言語聴覚学専攻	総合型選抜 (リーダーシップ型)	エントリー	6	12	12	9	2.0	1.3	
			出願		12	9				
		学校推薦型選抜（指定校）			10	9	9	9	—	—
		学校推薦型選抜（公募）			10	10	10	10	1.0	1.0
		学校推薦型選抜（離島枠）			若干名	1	1	1	—	1.0
		一般選抜（一般）			11	32	24	12	2.9	1.3
		一般選抜（共通テスト利用・前期）			3	24	24	2	8.0	1.0
		一般選抜（共通テスト利用・後期）			若干名	1	1	1	—	1.0
		総合選抜型（社会人）			若干名	0	0	0	—	—
専攻合計			40	89	78	44	2.2	1.1		
学科合計			140	362	242	157	2.6	1.5		
保健科学部合計			340	956	666	379	2.8	1.4		

※専攻合計・学科合計・保健科学部合計の人数に総合型選抜（リーダーシップ型）のエントリー者数は含まれません。

令和8年度 学生在籍者数

5月1日現在

	保健科学部							大学院 保健科学 研究科	公衆衛生 看護学 専攻科	助産学科	キャリア教育研修センター			大学合計
	医学検査 学科	看護 学科	リハビリテーション学科				学部合計				認定看護師 教育課程 (脳卒中 看護分野)	認定看護師 教育課程 (認知症 看護分野)	特定行為 研修課程	
1年	118	111	75	50	47	172	401	15	20	20	9	9	2	476
2年	119	138	67	41	47	155	412	16						428
3年	106	119	63	29	49	141	366							366
4年	130	122	75	37	29	141	393							393
合計	473	490	280	157	172	609	1,572	31	20	20	9	9	2	1,663

学友会役員紹介

本年度学友会会長を務めさせていただきリハビリテーション学科理学療法学専攻3年の西村衣純です。副会長の西条世奈(理学療法学専攻3年)、尾方晴道(理学療法学専攻2年)、その他の学友会運営部を筆頭に、先生方、外部の企業様、地域の方々と共に楽しく活動していけるように頑張りたいと思います。

本年度の学友会は、「学生が主体的に行動し、互いに高め合える環境づくり」を目標に活動してまいります。学友会は、杏祭や新入生歓迎会などの行事運営だけでなく、学生生活をより充実させるための架け橋となる存在でありたいと考えています。

私たちは、「参加する側」だけではなく、「創り上げる側」として学生一人ひとりが関われる学友会を目指しています。そのために、学生の声を積極的に取り入れ、学年や学科を超えた交流の機会を増やし、「挑戦してみたい」「関わってみたい」と思える活動を企画していきます。

役員一同、責任感と向上心を持ちながら、熊本保健科学大学をさらに活気ある大学にできるよう努めてまいります。今年度も学友会活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



リハビリテーション学科
理学療法学専攻3年

西村 衣純さん

クラブ・サークル活動

サッカー部

こんにちは！私たちサッカー部は、男女合わせて32人で活動しています。活動日は毎週木曜日の18時から21時までで、グラウンドで練習を行っています。「サッカーを楽しみたい」「運動不足を解消したい」「先輩や後輩、他学科の人と仲良くなりたい」など、さまざまな理由で参加している部員が多く、経験や実力に関係なく楽しめる雰囲気が魅力です。練習中は、それぞれが目標に向かって真剣に取り組みながら、経験者が初心者に基礎を教えるなど、明るく楽しく活動しています。サッカーが好きな人はもちろん、「初心者だけど挑戦してみたい」「少し体を動かしたい」という方も大歓迎です。授業やアルバイトとも両立しやすく、充実した大学生活を送れる部活です。少しでも興味がある方は、ぜひ気軽に見学や体験に来てください！



軽音楽部



私たちは音楽大好き！な軽音楽部です。毎年恒例の杏祭(学園祭)ライブを含め、年に6回ほどKMバイオリジクスアリーナ(本学アリーナ)でライブを開催しています。普段の活動は、各部員が授業の空き時間や放課後に部室で練習するといった個人練習が中心です。しかし、ライブが近づくとバンドごとに部室に集まってリハーサルを繰り返し、熱いライブを開催しています。

ライブへの出演は初心者にとってハードルが高いと思いますが、軽音楽部は初心者大歓迎です。大学入学後に楽器を始め、杏祭ライブに出演した部員もたくさんいます。部員ならば誰でも利用可能な備品(楽器)も準備していますし、先輩部員が各楽器パートを丁寧に教えてくれます。なお、軽音楽部は楽器を弾きたいだけでなく、ライブを見るのが好きな方や音響機器に興味がある方も大歓迎です。部室でゆっくり音楽の話をしませんか？一緒にライブを盛り上げませんか？おいでませ軽音楽部。

新入生インタビュー

今年度の新入生に入学しての感想、
これからの抱負、楽しみにしている事、etc…インタビュー！

医学検査学科



児玉 来瞳さん

最後に
ひとこと!

的確で迅速な検査ができる臨床検査技師になれるように一生懸命頑張ります!!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

入学した頃は、友達ができるか授業についていけるかととても不安だったけれど、今では友達もでき授業で分からなかったところを先生に気軽に聞けるのでしっかりと内容を理解することができています。友達と話したり、ご飯を食べたり毎日が充実しておりとても楽しいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

ボランティア活動をしたいです。高校では、ほとんどボランティア活動をしてこなかったため、大学ではボランティア活動をたくさんして多くの人たちと関わり、多様な価値観に触れたり、たくさん話してコミュニケーション能力を高めたいです。

看護学科



金子 秀彩さん

最後に
ひとこと!

新しい出会いや経験を大切にしながら、自分らしく成長していきたいです。

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

新しい環境の中で、毎日が新鮮な気持ちで過ごしています。最初は慣れないこともありましたが、少しずつ大学生活のリズムがつかめてきました。同じ目標に向かう仲間の姿に刺激を受ける場面も多いです。授業では専門的な内容に触れる中で、自分の成長を実感する瞬間が増えてきました。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

さまざまな人と関わる中で、自分の考え方や視野を広げていきたいと考えています。これまでとは異なる環境で過ごすことで、新しい価値観に触れたり、自分の中の当たり前を見直したりできることが楽しみです。また、友人との交流やボランティア活動などにも積極的に参加し、実践的なコミュニケーション力を身につけていきたいです。

リハビリテーション学科 理学療法学専攻



浦上 大和さん

最後に
ひとこと!

どんな時でも周りと協力して目標達成に向け努力していきます!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

同じ目標を持つ仲間と出会えたことが、入学して最も大きな喜びでした。新しい知識を吸収しながら成長できていると感じています。また、学友会やサークル活動を通して先輩方と関わる機会も多く、温かく支えてくださる環境に恵まれていると実感しています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

将来、スポーツ分野に関わる理学療法士として活躍するため、大学生活の中で、実際にスポーツ選手の方々と関わり、現場の空気や求められる支援を感じていきたいです。また、現場で得た気づきや発見を学びに還元し、専門職としての力を高めていきたいです。

リハビリテーション学科 作業療法学専攻



永井 向日葵さん

最後に
ひとこと!

この大学生活で多くのことを学び、日々成長していきたいです!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

熊本保健科学大学に入学して、校舎がとても綺麗で快適に過ごせる環境だと感じました。

また、先生方の優しさに触れ入学当初に感じていた不安もすぐに無くなりました。同じ志を持つ仲間にも出会うことができ、毎日充実した大学生活を送れています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

勉強だけでなく、多くの人と関わり、さまざまな経験をしてみたいです。大学に入って多くの人と関わる機会が増えたので、その繋がりを大切にしていきたいと考えています。また、サークル活動やボランティアなど高校では体験できなかった新しいことにも挑戦したいです。

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻



長瀬 昂志さん

最後に
ひとこと!

自分の夢のために頑張りたいです!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

大学での生活はとても楽しく、充実しています。私は対馬という離島からの進学で不安もありましたが、周囲の同級生は皆とても優しく、先生方や先輩方も親しみやすい方ばかりで、安心して大学生活を送れています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

高校時代にできなかったアルバイトや運転免許を取得してドライブに出かけることに挑戦したいです。自分で働いて得たお金を自分の成長のために使い、少しずつ自立した姿を家族に見せたいと思っています。大学生だからこそできる経験を大切に、精一杯楽しみたいです。

大学院



木永 丈翔さん

最後に
ひとこと!

研究分野でも活躍できる臨床検査技師になれるよう頑張ります。

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

4年間過ごした母校の大学院で、再び研究に励むことができることをとても嬉しく思います。学部時代からお世話になっている先生方のご指導のもと、研究や学会発表に取り組むことができ、毎日楽しく充実した日々を送っています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

以前からECMOなどの人工臓器について関心があるため、学会発表や講演にこれまで以上に積極的に参加したいと考えています。また、学会で得た知識を現在進めている体外循環中の血栓症についての研究に繋げていきたいです。

公衆衛生看護学専攻科



土井 彩子さん

最後に
ひとこと!

同期と高め合いながら充実した1年間にしたいです!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

新しい環境に不安もありましたが、様々な出身地、経歴をもつ同期と日々助け合いながら勉強ができています。先生方も優しく、学校生活や就職についても手厚いサポートがありとても心強く感じます。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

熊本県内の市町村で行われる実習では地域の特徴や状況から健康課題を抽出し保健活動につなげたいです。また、1年間の充実したカリキュラムの中で様々な経験を保健師としての理想像を具体的にしていきたいです。

助産別科



奥山 美優さん

最後に
ひとこと!

女性の生涯にわたる健康を支える助産師を目指して頑張ります!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は?

年齢もキャリアもバラバラな20人の仲間と優しい先生方のサポートのもと、充実した学生生活を送ることができています。授業や課題など目まぐるしい日々ですが、仲間と切磋琢磨しながら楽しく学修に励むことができています。

Q2 大学生活でやってみたいことは?

助産別科ではオレンジリボン運動や地域でのボランティアなど様々な活動に取り組んでいるため、積極的に参加し地域との交流を通して、助産師として求められる知識やスキルを磨いていきたいです。

令和7年度決算報告

学校法人銀杏学園の令和7年度決算は、令和8年6月25日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

①事業活動収支計算書

令和7年度の経常収支差額は+125百万円と収支均衡を達成しており、**前年比9百万円の減少**でした。これは収入面で**教育活動収入が274百万円、教育活動支出が288百万円、それぞれ前年比増加**しましたが、教育活動支出の方が増加幅が大きかったことが原因です。

②資金収支計算書

令和7年度の翌年度繰越支払資金は2,550百万円となり、**前年比12百万円の減少**でした。**資産売却収入が225百万円減少**したことに加え、**資産運用支出が331百万円増加**したことが原因です。

事業活動収支計算書要約（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：千円）

科目		令和7年度決算	令和6年度決算	増減	科目		令和7年度決算	令和6年度決算	増減		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,296,841	2,180,221	116,620	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	35,178	35,710	△ 532			その他の特別収入	4,634	34,724	△ 30,090
		寄付金	28,261	27,790	471		特別収入計	4,634	34,724	△ 30,090	
		経常費等補助金	628,266	465,529	162,737		支出の部	資産処分差額	4,617	641	3,976
		付随事業収入	38,837	41,835	△ 2,998			その他の特別支出	90,640	0	90,640
		雑収入	46,462	48,264	△ 1,802			特別支出計	95,257	641	94,616
		教育活動収入計	3,073,845	2,799,349	274,496		特別収支差額	△ 90,623	34,083	△ 124,706	
	事業活動支出の部	人件費	1,477,915	1,500,192	△ 22,277	〔予備費〕				0	
		教育研究経費	1,381,398	1,091,568	289,830	基本金組入前当年度収支差額		34,241	168,103	△ 133,862	
		管理経費	201,779	181,632	20,147	基本金組入額合計		△ 52,186	△ 94,192	42,006	
徴収不能額等		0	0	0	当年度収支差額		△ 17,945	73,911	△ 91,856		
教育活動支出計		3,061,092	2,773,392	287,700	前年度繰越収支差額		△ 2,902,514	△ 2,976,425	73,911		
教育活動外収支	収入の部	教育活動収支差額	12,753	25,957	△ 13,204	(参考)	基本金取崩額	0	0	0	
		受取利息・配当金	112,111	108,063	4,048		翌年度繰越収支差額	△ 2,920,459	△ 2,902,514	△ 17,945	
		その他の教育活動外収入	0	0	0						
		教育活動外収入計	112,111	108,063	4,048		事業活動収入計	3,190,590	2,942,136	248,454	
		借入金等利息	0	0	0		事業活動支出計	3,156,349	2,774,033	382,316	
	支出の部	その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	0	0	0						
		教育活動外収支差額	112,111	108,063	4,048						
		経常収支差額	124,864	134,020	△ 9,156						

資金収支計算書要約（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和7年度決算	令和6年度決算	増減	科目	令和7年度決算	令和6年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,296,841	2,180,221	116,620	人件費支出	1,468,698	1,482,811	△ 14,113
手数料収入	35,178	35,710	△ 532	教育研究経費支出	995,539	691,920	303,619
寄付金収入	28,261	27,790	471	管理経費支出	166,277	145,096	21,181
補助金収入	628,266	465,529	162,737	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	300,000	525,000	△ 225,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	38,837	41,835	△ 2,998	施設関係支出	12,678	67,232	△ 54,554
受取利息・配当金収入	112,448	108,063	4,385	設備関係支出	115,451	75,476	39,975
雑収入	46,464	48,264	△ 1,800	資産運用支出	730,930	400,000	330,930
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	140,288	199,064	△ 58,776
前受金収入	377,008	414,294	△ 37,286				
その他の収入	37,763	53,596	△ 15,833				
資金収入調整勘定	△ 488,640	△ 421,166	△ 67,474	資金支出調整勘定	△ 205,072	△ 135,419	△ 69,653
前年度繰越支払資金	2,562,345	2,009,389	552,956	翌年度繰越支払資金	2,549,982	2,562,345	△ 12,363
収入の部合計	5,974,771	5,488,525	486,246	支出の部合計	5,974,771	5,488,525	486,246

貸借対照表要約（令和8年3月31日現在）

（単位：千円）

資産の部				負債の部				純資産の部			
科目	令和7年度末	令和6年度末	増減	科目	令和7年度末	令和6年度末	増減	科目	令和7年度末	令和6年度末	増減
固定資産	8,537,813	8,400,435	137,378	固定負債	268,106	258,013	10,093	基本金	13,098,550	13,046,364	52,186
有形固定資産	5,823,256	6,120,402	△ 297,146	預り保証金	150	150	0	第1号基本金	12,925,550	12,873,364	52,186
土地	1,504,743	1,504,743	0	退職給与引当金	267,956	257,863	10,093	第4号基本金	173,000	173,000	0
建物	3,271,315	3,545,630	△ 274,315	流動負債	726,201	620,362	105,839	繰越収支差額	△ 2,920,460	△ 2,902,514	△ 17,946
その他の有形固定資産	1,047,198	1,070,029	△ 22,831	未払金	190,570	132,565	58,005	翌年度繰越収支差額	△ 2,920,460	△ 2,902,514	△ 17,946
特定資産	300,000	170,000	130,000	前受金	377,008	414,294	△ 37,286	純資産の部合計	10,178,090	10,143,850	34,240
その他の固定資産	2,414,557	2,110,033	304,524	預り金	68,859	73,503	△ 4,644	負債及び純資産の部合計	11,172,397	11,022,225	150,172
流動資産	2,634,584	2,621,790	12,794	賞与引当金	89,764	0	89,764				
現金預金	2,549,982	2,562,345	△ 12,363	負債の部合計	994,307	878,375	115,932				
その他の流動資産	84,602	59,445	25,157								
資産の部合計	11,172,397	11,022,225	150,172								

令和8年度予算報告

学校法人銀杏学園の令和8年度予算は、令和8年6月25日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

①事業活動収支予算書

令和8年度の経常収支差額は±0百万円と収支均衡が保たれていますが**前年比125百万円減少**します。これは、**人件費の増加(前年比+143百万円)**等を織り込んだことが原因です。

②資金収支予算書

令和8年度の翌年度繰越支払資金は1,503百万円となり、**前年比1,047百万円減少**します。**資産売却収入が300百万円減少**したことに加え、**資産運用支出が369百万円増加**したこと等が原因です。

事業活動収支予算書要約 (令和8年4月1日～令和9年3月31日) (単位：千円)

科目			令和8年度予算	令和7年度決算	増減	科目		令和8年度予算	令和7年度決算	増減	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,310,000	2,296,841	13,159	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		手数料	35,000	35,178	△ 178			その他の特別収入	0	4,634	△ 4,634
		寄付金	28,000	28,261	△ 261			特別収入計	0	4,634	△ 4,634
		経常費等補助金	680,000	628,266	51,734		事業活動支出の部	資産処分差額	0	4,617	△ 4,617
		付随事業収入	27,000	38,837	△ 11,837			その他の特別支出	0	90,640	△ 90,640
		雑収入	90,000	46,462	43,538			特別支出計	0	95,257	△ 95,257
		教育活動収入計	3,170,000	3,073,845	96,155		特別収支差額	0	△ 90,623	90,623	
	事業活動支出の部	人件費	1,620,759	1,477,915	142,844	〔予備費〕		30,000		30,000	
		教育研究経費	1,404,827	1,381,398	23,429	基本金組入前当年度収支差額		△ 30,000	34,241	△ 64,241	
		管理経費	254,414	201,779	52,635	基本金組入額合計		△ 380,078	△ 52,186	△ 327,892	
		徴収不能額等	0	0	0	当年度収支差額		△ 410,078	△ 17,945	△ 392,133	
		教育活動支出計	3,280,000	3,061,092	218,908	前年度繰越収支差額		△ 2,920,459	△ 2,902,514	△ 17,945	
	教育活動収支差額		△ 110,000	12,753	△ 122,753	基本金取崩額		0	0	0	
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	110,000	112,111	△ 2,111	翌年度繰越収支差額		△ 3,330,537	△ 2,920,459	△ 410,078
その他の教育活動外収入			0	0	0	(参考)					
教育活動外収入計			110,000	112,111	△ 2,111	事業活動収入計		3,280,000	3,190,590	89,410	
支出の部		借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計		3,310,000	3,156,349	153,651	
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	0	0	0						
教育活動外収支差額		110,000	112,111	△ 2,111							
経常収支差額		0	124,864	△ 124,864							

資金収支予算書要約 (令和8年4月1日～令和9年3月31日) (単位：千円)

収入の部				支出の部			
科目	令和8年度予算	令和7年度決算	増減	科目	令和8年度予算	令和7年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,310,000	2,296,841	13,159	人件費支出	1,515,759	1,468,698	47,061
手数料収入	35,000	35,178	△ 178	教育研究経費支出	1,042,827	995,539	47,288
寄付金収入	28,000	28,261	△ 261	管理経費支出	222,414	166,277	56,137
補助金収入	680,000	628,266	51,734	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	300,000	△ 300,000	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	27,000	38,837	△ 11,837	施設関係支出	120,400	12,678	107,722
受取利息・配当金収入	110,000	112,448	△ 2,448	設備関係支出	259,678	115,451	144,227
雑収入	90,000	46,464	43,536	資産運用支出	1,100,000	730,930	369,070
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	220,780	140,288	80,492
前受金収入	377,008	377,008	0				
その他の収入	74,346	37,763	36,583	〔予備費〕	30,000		30,000
資金収入調整勘定	△ 451,354	△ 488,640	37,286	資金支出調整勘定	△ 184,876	△ 205,072	20,196
前年度繰越支払資金	2,549,982	2,562,345	△ 12,363	翌年度繰越支払資金	1,503,000	2,549,982	△ 1,046,982
収入の部合計	5,829,982	5,974,771	△ 144,789	支出の部合計	5,829,982	5,974,771	△ 144,789

目次

I 法人の概要

- 1 基本情報
- 2 建学の精神、基本理念、ミッション及びタグライン
- 3 沿革
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 学生数の状況
- 6 収容定員充足率
- 7 役員の概要
- 8 評議員の概要
- 9 会計監査人の概要
- 10 理事選任機関の概要
- 11 教職員の概要
- 12 卒業生の概要

II 事業の概要

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

(2) 教育・研究の内容(保健科学部及び保健科学研究科の3つのポリシー)

2 中期的な計画(教育・研究・経営)に関する事業計画の進捗・達成状況

(1) 教育に関すること

(2) 研究に関すること

(3) 経営に関すること

3 学生の動向

- (1) 入学試験における志願等の状況
- (2) 国家試験の合格状況
- (3) 卒業生の進路状況

III 財務の概要

- 1 決算の概要(過去5年分)
- 2 資産運用等の状況
- 3 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

ここでは、II 事業の概要の赤字部分を紹介します。

II 事業の概要

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

第II期中期計画(2023年度から4年間)の3年目となる2025(令和7)年度は改正私立学校法の施行の年度となり、学園内の体制も様変わりしました。6月の定時評議員会終了後に開催された新メンバーによる理事会において竹屋学長が理事長に選任されたことで、理事長・学長兼任による新体制がスタートしました。新理事長のお披露目式では、「学部の魅力、競争力の向上」「社会の要請に応えるリカレント(スキルアップ)教育の積極的な展開」「大学運営の質・生産性の向上とチャレンジする組織風土の醸成」の三つの基本方針が示されました。この基本方針の達成に向けて、医学検査学科と看護学科においては学長直轄の「在り方検討プロジェクト」が立ち上がり、ボトムアップ型の改革に向けた取組みが進められました。

また、昨年度から選定されている「少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援(キラリと光る教育力)」の経営改革計画に基づき、計画書に記載した7事業(①看護学科の看護教育の充実、医学検査学科の自治体・企業と連携した教育研究の充実、②リハ学科のJSPQ-AT(日本スポーツ協会アスレティックトレーナー)養成校の指定、③公衆衛生看護学専攻科(保健師養成)の設置、④社会人向け資格対策講座(細胞検査士コース)の開講、⑤認定看護師教育課程・特定行為研修課程の定員増、⑥大学院修士課程の定員増、⑦大学院博士課程の設置)を推進し、着実に成果を挙げることができました。

高大連携の面では、熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)との協定に基づき、鹿本高校、熊本西高校及び東稜高校の生徒に対して合計6件の研究支援(医学検査学科1件、看護学科1件、リハ学科4件)を行い、4年連続して実績を積み重ねることができました。また、健康・スポーツ教育研究センターを核とした行政・地域団体・企業との連携による実践的教育が体系化され、研究活動も推進することができ、イノベーション創出に向けた基盤形成に取り組むことができました。

2 中期的な計画(教育・研究・経営)に関する事業計画の進捗・達成状況

(1) 教育に関すること

1) 質の高い医療技術者の養成【目標1】

(1)適切な学外実習先の確保と連携強化による実習教育の充実

適切な実習先の確保を進めたことで、遅滞なく実習科目の開講を終えることができた。また、実習施設および指導担当者との連絡・調整を密に行うことで、実習教育の質を担保した。【(1)達成率100%】

(2)開設初年度である公衆衛生看護学専攻科の教育の充実(自治体との連携強化など)

開設初年度であった公衆衛生看護学専攻科は、指定規則に示された保健師教育の単位数である31単位に対し、2単位増の33単位で開設した。演習科目を増設し、健康水準を高めるための社会資源の開発や施策化に関するカリキュラムでは、県・市町村との連携体制を構築し、自治体管理職等の協力を得て実施するなど、運営体制の充実を図った。その結果、保健師国家試験合格率100%を達成し、小規模自治体への就労も実現するなど、保健師確保に苦慮する自治体の確保対策にも寄与し、就職率100%を達成した。令和8年度の入試においては、競争率が2.2倍となるなど、一定の成果が認められた。【(2)達成率100%】

(3)プラスアルファの資格・技能などによる他校との差別化

医学検査学科では、心電図検定等において延べ65名が資格を取得した。また、学生や若手医師を対象に開催された第1回心エコー選手権において、本学科のチームが3位および4位に入賞した。看護学科では、学部学生全員が地域の高齢者サロンおよび中学校を訪問し、転倒予防、喫煙、薬物などの健康問題に関する「健康教室」を計画・実施・評価まで一貫して行い、「健康教育」に関する知識と技術の向上に取り組んだ。リハビリテーション学科の理学療法学専攻および作業療法学専攻では、本学科の教育課程で取得可能な初級パラスポーツ指導員資格等の積極的な取得を指導し、令和7年度には理学療法学専攻の学生33名が資格を取得した。さらに、理学療法学専攻のスポーツリハビリテーションコースにおいては、日本トレーニング指導者協会(JATI)及び日本スポーツ協会(JSPQ)認定のアスレティックトレーナーの資格取得に向けた指導を開始している。言語聴覚学専攻では、言語発達臨床教育研究室を活用し、より臨床に近い実践的な学びの体験を持つ学生の養成に取り組むなど行った。【(3)達成率100%】

2) 学生支援体制の強化【目標3】

(1)高水準の進級率と規定年数内卒業率の維持(規定年数内卒業率88%以上)

令和4年4月入学者の規定年数内卒業率は、医学検査学科80.0%、看護学科93.3%、リハビリテーション学科理学療法学専攻77.1%、作業療法学専攻86.0%、言語聴覚学専攻84.0%であり、学部全体では84.7%であった(目標値88%に対して96%の達成)。全国平均82.1%を上回っているものの、近年はわずかながら低下傾向にある。特に理学療法学専攻では、昨年度の77.3%からさらに0.2%低下しており、3年次から4年次への進級率の低下が影響していた。学部全体の留年率は10.8%であり、留年者の約80%は1・2年次に集中していた。また、学部全体の退学率は4.5%で、退学者の大半が1・2年次に発生していた。留年後に退学した者を含む単年度退学率は1.9%で、学校基本調査の全国平均(2.0%)と比較し、ほぼ同じ状況にある。一方、リハビリテーション学科では理学療法学専攻3.2%、作業療法学専攻2.9%、学科全体で2.9%と全国平均を上回っている。主な退学理由は、学習意欲の低下や進路再考などであった。今後の課題として、留年者および退学者の減少が挙げられる。引き続き、すべての学科・専攻において留年・退学の実態と要因分析を行い、改善に向けた取り組みを進めていく必要がある。【(1)達成率96%】

3) アドミッションポリシー(入学者受入れ方針)に適合した入学者確保【目標5】

(1)学科・専攻ごとの目標入学者数の確保(達成率100%)

医学検査学科では目標数115名/入学者数114名(達成率99%)、看護学科では目標数110名/入学者数108名(達成率98%)、リハビリテーション学科では目標数157名/入学者数157名(達成率100%)であり、ほぼ目標を達成した。看護学科の結果は、定員管理の観点から、歩留まり率を高めに設定した影響によるものである。学部全体では目標数382名(定員の112%)に対し379名(同111%)であった。【(1)達成率99%】

(2)各学科・専攻における適性の高い志願者数の増加(総志願者数1,100人)

志願者数は、リハビリテーション学科理学療法学専攻のみ増加し、その他の学科・専攻では減少したため、全学的に志願者減となった。特に医学検査学科では急激な志願者減がみられたが、臨床検査技師を養成する九州内の他の国立大学(熊本大学・九州大学・大分大学)でも約3割の志願者減となっていた。これは本学だけの傾向ではなく、九州圏全体で臨床検査技師志望者が減少している状況がうかがえる。学部総志願者数は961名で、前年度比90.8%と減少し、目標人数(1,100名)

には達しなかった。入試区分別にみると、新設の学校推薦型選抜(離島枠)を除き、すべての入試区分で志願者が減少した。特に、総合型選抜(リーダーシップ型)が前年比79%であったこと、大学入学共通テスト利用選抜(前期)の志願者が前年比82%と減少したことが、総志願者数減少の主な要因として挙げられる。加えて、その他の入試区分でも前年に続き志願者は総じて減少しており、依然として厳しい状況が続いている。今後も、効果的な広報活動に加え、特色や魅力のある教育内容を打ち出すことで、他大学との差別化を図る必要がある。なお、次年度の目標人数については、令和7年度と同様に1,100名と設定している。【(2)達成率90%】

4)高水準の国試合格率と就職率の堅持、進学者の支援【目標6】

- 〔1〕90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成
 - ・国家試験の合格率は、理学療法士・作業療法士・保健師・助産師が100%であった。また、臨床検査技師98.1%、看護師98.3%、言語聴覚士96.0%であり、いずれの資格においても4年制大学新卒の全国平均を上回った。【(1)達成率100%】
- 〔2〕就職率100%の堅持
 - ・3月31日現在の進路決定率(就職+進学)は、全学科(専攻)において100%であり、卒業年度内での就職率も100%に達した。今後も、早期からの就職活動支援を一層推進し、年度内就職率100%の維持を目指していく。【(2)達成率100%】
- 〔3〕進学支援の充実(進学者25人)
 - ・本学では、大学院、公衆衛生看護学専攻科、助産別科への進学を積極的に奨励している。本学大学院への進学者は、医学検査学科2名、リハビリテーション学科5名(理学療法専攻4名、作業療法専攻1名)の計7名であった。看護学科からは、公衆衛生看護学専攻科へ11名、助産別科へ11名が進学した。【(3)達成率100%】

(2)研究に関すること

1)学内研究のさらなる推進【目標1】

- 〔1〕中期計画の学科専攻による研究推進計画について進捗状況の確認(令和7年度中)
 - ・中期計画の各学科専攻による研究推進計画に関して、各学科・専攻にアンケートを実施し進捗状況の把握を行った。それぞれ工夫はなされており、一定の成果は得られているものの、一部で十分な研究時間の確保が困難であるという課題を残しており、その解決には教育を含めた学科専攻の在り方自体を見直す必要があることが、あらためて浮き彫りとなった。【(1)達成率100%】
- 〔2〕進行中(P&P,Aタイプ)あるいは計画中の学内共同研究のニーズ把握と支援強化(令和7年度中)
 - ・本件の成果指標として、学内共同研究を対象とした学内研究費(P&P)Aタイプの採択数を挙げることができる。今年度は新規が1件、継続が1件、合計2件が採択されており、学科専攻横断的な研究が着実に広がりつつあることが確認できた。【(2)達成率100%】

2)研究者(特に若手)の人材育成推進と研究環境の整備【目標3】

- 〔1〕研究費獲得のための外部支援サービス(ジョーラント(株))の継続利用と効果検証
 - ・令和6年度に続き、外部支援サービス(ジョーラント(株))と契約し、研究計画調書(申請書)の添削などのサービスを受けた(採択6件/17、採択率35%)。教員からは好評であり、前年度を上回る採択率であった(前年度採択率30%)。【(1)達成率100%】
- 〔2〕研究者へのアンケートを通じたニーズの把握と対策の構築(令和7年度中)
 - ・研究者のニーズとして学術認証フェデレーション(GakuNin)システムの希望があり、今年度から研究者および大学院生を対象として運用を開始した。①シングルサインオンによる多様な文献検索サービスへのアクセスが可能となり、②研究データ管理システム(GakuNinRDM)の利用によって、適切な研究データ管理(特に共同研究者との安全なデータ共有など)が可能となるなど、研究環境の改善に役立っている。【(2)達成率100%】

3)公正な研究活動を推進するための再構築と啓発活動の強化【目標4】

- 〔1〕現行の「不正使用防止計画推進室」を廃止し、これに代わる組織として「公正な研究推進支援室(仮称)」を新設(令和7年度中)
 - ・現行の「不正使用防止計画推進室」は、研究費の不正使用防止に特化した業務内容となっているが、文部科学省のガイドラインを踏まえると、研究倫理に関する事象など、研究費使用以外の研究不正防止への対策も必要である。そこで「不正使用防止計画推進室」を廃止し、これに代わる組織として「公正な研究推進支援室(仮称)」を新設する方針を決め、組織体制や学内ルールの見直しなど、その作業を進めている。当初予定の令和7年度開始には間に合わなかったが、令和8年度には新体制に移行予定である。【(1)達成率50%】
- 〔2〕「研究活動の手引き」(ハンドブック版作成予定)や研究費不正防止チェックリストの普及と活用促進(令和7年度中)
 - ・「研究活動の手引き」は毎年見直しを行っており、今年度も「研究倫理・不正防止に関する研修会及び研究費の適正使用に関する研修会」にて変更点の説明を行った。

さらに利便性を図るために教職員からのアンケートを基にFAQを作成し周知を行った。また、研究費不正防止チェックリストは、研修会アンケートの必須項目とするなどで100%普及を達成し、対象者全員が自己確認を行った(受講率100%)。

【(2)達成率100%】

(3)経営に関すること

1)財務基盤の強化【目標1】

- 〔1〕長期的な経常収支管理を念頭においた既存支出の見直し
 - ・本学の財務は収入の大部分を学納金が、支出の過半数を人件費が占めている。少子化や近隣校の公立化に伴い将来的な学納金収入の減少が予測される一方、最低賃金の引き上げ等による人件費高騰が深刻化し、人件費コントロールが喫緊の課題となっていた。このため、経常収支の赤字を回避する財務健全化策として、開学以来継続してきた「人事院勧告(国家公務員俸給表)への準拠」を当面見送る決断をした。【(1)達成率100%】
- 〔2〕メリハリ付けた重点的投資(DX推進等)
 - ・令和7年7月に「DX推進室」を新設し、基本方針として「教育」「研究」「業務・経営」「基盤整備」の4分野を策定した。現在は同方針に基づく具体的な推進計画を基に、全館(必要エリア)へのWi-Fi環境導入などの基盤整備を先行して進めている。これらの取り組みは現在も進行中であるため、令和8年度も継続して実施する計画としている。【(2)達成率80%】

2)管理運営・ガバナンスの強化【目標2】

- 〔1〕私学法改正の改正に関連したガバナンス体制の推進
 - ・改正私立学校法に沿って刷新した寄附行為および内部統制システムの、移行初年度にあたる令和7年度は、新寄附行為に基づき「執行と監督の分離」を厳格に実施した。外部有識者を中心に構成された新たな評議員会を計画通り開催し、理事の選解任権をはじめとする監督機能が問題なく作動したことを確認できている。また、構築した「内部統制システム基本方針」に則り、全学的なリスク洗い出しとコンプライアンス研修を実施した。内部監査部署と監事・会計監査人との連携も緊密に行われ、業務の適正性を担保する牽制体制が機能している。今後は、運用の定着を図るとともに、評価に基づき各規程を不断に見直ししていく。【(1)達成率100%】

3)教職員組織の充実【目標3】

- 〔1〕更なる充実した研修制度の構築
 - ・FD、SDの実施方針、体系化に基づき、各委員会等で実施している研修を機能別(業務別)研修として位置づけ実施した。生成AIを活用した議事録作成の研修会(事務職員対象)の実施や、私学法改正に伴った内部統制システムの一環としての、リスクマネジメント・コンプライアンス合同研修会(2回実施)をいずれも内部講師で実施した。研修制度全体としての評価までには至らなかったのは課題として捉えている。【(1)達成率90%】
- 〔2〕評価制度見直し等のモチベーション向上策など
 - ・「定年制度」については、昨年に引き続き定年の引上げとして、教育職員(講師・助教)の定年年齢を65歳に改定した。役職定年等の制度も構築されており運用している。
 - ・教員人事評価制度については、規程を改定し、評定者の整理、研究のエビデンス資料等の改善を行った。職員も含めた全体的な制度の改善については引き続き検討する。【(2)達成率70%】

4)健康寿命延伸など地域の課題に対する産官学連携による先導した取り組みの推進など【目標5】

- 〔1〕行政・企業との連携強化
 - ・本学では多数の行政等と連携協定を締結しているものの、一部で形骸化が課題となっていたため、令和7年7月、新設された産官学連携センターを中心にモニタリング制度を導入した。主要な連携事業を抽出し、前年度報告および次年度計画の提出を義務付けたことで、課題の把握と解決策の協議が可能となり、連携強化を実現している。また、外部窓口として大学ホームページ内に専用ページを開設した結果、新規の連携打診が増加するなど、対外的な発信力も向上している。【(1)達成率100%】
- 〔2〕キャリア教育及びリカレント教育の充実
 - ・熊本県臨床細胞学会が主催してきた「細胞検査士養成講習」を、本学のキャリア教育研修センターで引き継ぎ、令和8年4月より正式開講することとした。これに伴い、令和7年度は試行期間として準備プログラムを実施した。本講習では、他校で導入例が少ないWSI(バーチャルスライドシステム)を活用している点が特徴である。これにより、遠方からでもWeb参加が可能な講習体制を構築し、県外から幅広く受講者を募る計画としている。【(2)達成率100%】

教 育

【令和8年度の「重点的な取り組み」及び「達成目標」】

教1 近未来を想定したリーディング大学に相応しい教育内容の充実

- 1-1.新カリキュラムに対応した教育内容の充実
 - 学生アンケートによる授業改善と質的向上を図る
 - FDアンケート満足度3.0未満科目、「講義科目のうち、平均GPGが4.0の科目及び1.50未満の科目」への科目責任者ヒアリングを実施する
 - データサイエンス教育の推進を進める
 - 各学科におけるカリキュラム運用の評価と改善を実施する
 - 各学科において教材研究や科目横断的な取り組みなどを行う
- 1-2.実践力強化のための演習・臨地実習の充実
 - 臨地実習前技能修得到達度評価試験の定着・改善を図る(医学検査学科)
 - シミュレーション教育の推進と授業研究の深化(看護学科)
 - 実習前後のOSCEの定着・改善を図る(リハビリテーション学科)
 - 実習施設との連携強化と診療参加型実習の推進(リハビリテーション学科)
 - 実習支援システムの導入・検証・改善を継続する(リハビリテーション学科)
 - 実習施設の確保・体制整備に努める(看護学科・リハビリテーション学科)
- 1-7.大学院教育の更なる充実
 - 修士課程の収容定員増について文部科学省の承認を取得する
 - 博士課程設置にむけた申請準備を計画的に進める
 - 大学院教育を担う教員数を増員し、教育研究体制の充実を図る
 - 学生の教育ニーズに対応した新規科目を開設し、カリキュラムの充実を図る

教2 社会の要請に応える教育の質保証

- 2-1.アセスメントプランに基づいたPDCAサイクルの確立
 - 修学ポートフォリオの定着と活用を通じた学修支援の質的向上を図る
 - SG担任によるセメスターごとの面談を確実に実施する
 - 就職支援セミナーや教員初任者研修を通じたポートフォリオ活用方法の研修を実施する
- 2-3.成績評価の適正化とその活用
 - 学部・学科・専攻レベルでの新しいDP(ディプロマ・ポリシー)を浸透させる
 - 新しいDPとCP(カリキュラム・ポリシー)の関連性を浸透させる
 - 必要に応じた教育課程の検討と再構築を図る
 - 教員間での理解促進およびFD研修などを通じて連携を強化する

教3 主体性を尊重した学生支援

- 3-2.高水準の進級率と4年卒業率の維持
 - 成績不振者への早期対応による留年・休学・退学者の数を減少する
 - 学科・専攻・SG担任・科目責任者の連携による支援体制を継続して行う
 - 進級率・卒業率の維持と向上を見据えたカリキュラムの見直しを行う
 - 各学科における(留年率が高い学年など)重点学年への対応を強化する

教4 効果的・効率的な教育の実施体制と環境整備

- 4-1.各学科内での効率的な体制の構築
 - 分野制導入による教育運営の安定化を図る
 - 科目間の連携強化による教育内容の整理を行う
 - 実習科目の運営体制の整備と情報共有の仕組みづくりなど効率的な体制を確立する
- 4-5.各種IRデータをもとにした教育環境の改善
 - IRデータを活用した課題の可視化と迅速な改善を継続する
 - 教育改革に資する検討・対応・進捗管理の仕組みづくり
 - IR推進のための組織体制の強化と運用の定着

教5 優秀で意欲ある入学生の確保に向けた入試制度等の再構築

- 5-1.年内入試への対応の検討
 - 総合型選抜の拡大など制度設計の見直しを行う
 - 指定校推薦の戦略的選定による志願者層の多様化を図る
 - 教育改革推進会議・入試改革委員会による制度的検討を継続する

教6 高水準の国試合格率と就職率の堅持

- 6-1.国家試験合格に向けた学習支援の充実と強化
 - 国家試験合格率「90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る」水準を達成する
 - 成績不振者への個別支援と学習意欲の向上への取り組みを行う
 - 学科・専攻・SG担任・対策委員会の連携による支援体制を強化する
 - オンラインの活用など状況に応じた学修支援を行う
- 6-2.就職率100%の維持と新たな就職先の開拓
 - 就職率100%を堅持する
 - 中核病院・行政職への就職を拡大する
 - 保健医療の学びを活かせる一般企業等への就職も促進する
 - 起業等多様な働き方に対応した支援を充実する

【中期計画の期間目標】★印は、令和8年度の重点項目

- ★ 教1 近未来を想定したリーディング大学に相応しい教育内容の充実
- ★ 教2 社会の要請に応える教育の質保証
- ★ 教3 主体性を尊重した学生支援

- ★ 教4 効果的・効率的な教育の実施体制と環境整備
- ★ 教5 優秀で意欲ある入学生の確保に向けた入試制度等の再構築
- ★ 教6 高水準の国試合格率と就職率の堅持

令和8年度事業計画

学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 令和8年度の重点的な取組み

研 究

【令和8年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

研1 本学の特徴を活かした学内研究の推進

1-1. 学科専攻による研究推進計画

→ 中期計画の学科専攻による研究推進計画について
進捗状況の確認

→ 学科在り方検討プロジェクトとの連携

研2 学外研究機関等との共同研究の推進

2-2. 医療機関・行政・企業等との連携

→ 令和7年に発足した産官学連携センターの活動と緊密に
連携し、共同研究を発展させる

研3 学内研究支援体制の整備

3-1. 研究人材育成の推進

→ 大学院研究科と緊密に連携し、修士課程の定員増や博士課程
の設置を支援する

3-3. 研究環境の整備

→ 大学院生の研究環境の整備・拡充

【中期計画の期間目標】 ★印は、令和8年度の重点項目

★ 研1 本学の特徴を活かした学内研究の推進

★ 研2 学外研究機関等との共同研究の推進

★ 研3 学内研究支援体制の整備

研4 責任ある研究活動の推進

研5 研究活動を通じた社会貢献の推進

経 営

【令和8年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

経1 財務基盤の強化

1-1. 安定的な財務基盤の強化

→ 大学運営における重要項目である、入学定員充足(全学科全専
攻)と総人件費のコントロールを含めた中期財務計画の作成

1-2. 既存支出の見直し

→ 費用対効果を見据えた支出の見直し

1-3. メリハリを付けた重点的投資

→ DX推進及び広報戦略の重点強化等

→ 長期的な修繕費を念頭においた財源の確保

経3 教職員組織の充実

3-1. 教員の効果的体制の実現

→ 医学検査学科及び看護学科における分野制の新たな展開

3-2. 職員の効果的体制の実現

→ 責任体制の明確化を目的とした事務組織の見直し

3-4. 教職員のモチベーション向上を図るための制度改善の実現

→ 人事評価制度の見直しへの着手

経4 戦略的な広報活動の展開

4-1. 戦略的な学外広報の展開

→ マスメディア、SNS、ホームページ等の更なるステップアップ

→ 宮崎・鹿児島地区の広報活動の強化

経5 地域の保健(健康長寿)を先導する社会活動の推進

5-1. 行政・企業との連携強化

→ 産官学連携センターを核とした連携体制の確立

【中期計画の期間目標】 ★印は、令和8年度の重点項目

★ 経1 財務基盤の強化

経2 管理運営・ガバナンスの強化

★ 経3 教職員組織の充実

★ 経4 戦略的な広報活動の展開

★ 経5 地域の保健(健康長寿)を先導する社会活動の推進

令和7(2025)年度 著書論文歴

【査読有】

※詳細はホームページに掲載しております(<https://www.acoffice.jp/khsuhp/KgApp>)
※本学の教員・学生・受入研究員には下線(著者順/著者数)

著者・共著者	標題	掲載誌名
Yamamoto K, <u>Kawaguchi T</u> (最終).(他7名)	Impact of the COVID-19 pandemic on the regional epidemiology of methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> in the Kumamoto region.	J Infect Chemother
Ghosh AK, <u>Aoki M</u> (7/9),Mitsuya,H.(他6名)	Design, Synthesis, Evaluation and X-ray Structural Studies of Potent HIV-1 Protease Inhibitors Containing Substituted Oxaspirocyclic Carbamates as the P2 Ligands	European Journal of Medicinal Chemistry
Shalaby O, <u>Ito T</u> (10/12),Nishinakamura R.(他9名)	Folliculin deletion in the mouse kidney results in cystogenesis of the loops of Henle via aberrant TFEB activation.	Am J Pathol
Kawano K,Masaki T(2/4), <u>Kawaguchi T</u> (3/4), <u>Kuroda M</u> (最終).	Persistence of Colistin Resistance and mcr-1.1-Positive E. coli in Poultry Despite Colistin Ban in Japan	Antibiotics
Kobayashi M, <u>Kuroda M</u> (19/20),Sunagawa T.(他17名)	Enhanced case finding and self-isolation measures in the early phase of SARS-CoV-2 Omicron transmission, Osaka, Japan, December 2021-January 2022.	Western Pac Surveill Response J.
Itokawa K, <u>Kuroda M</u> (4/8),Sanjoba C.(他5名)	Genomic analysis of co-infection with <i>Wolbachia</i> and <i>Candidatus Tisiphia</i> in the sand fly <i>Sergentomyia squamirostris</i> .	Front Microbiol.
Ferhaoui N, <u>Kuroda M</u> (最終).(他2名)	Shotgun Metagenomic Investigation of the Microbiome in Diabetic Foot Infections Compared to Healthy Skin.	Wound Repair Regen.
Suto Y, <u>Kuroda M</u> (6/7),Fukuda H.(他4名)	Candida tropicalis Brain Abscess Diagnosed by Metagenomic Next-Generation Sequencing: A Case Report.	Intern Med.
Nakamura G, <u>Kuroda M</u> (4/11),Saida Y.(他8名)	Multiplex PCR-based rapid pathogen identification in acute cholecystitis using the FilmArray BCID2 panel.	Front Microbiol.
Fukuyama K, <u>Kuroda M</u> (11/13),Tani H.(他10名)	Genome epidemiological and seroepidemiological study of the COVID-19 cluster in the nursing home	Jpn J Infect Dis.
Kitano T, <u>Kuroda M</u> (8/9),Ohmagari N.(他6名)	Environmental Dissemination of Antimicrobial Resistance: A Resistome-Based Comparison of Hospital and Community Wastewater Sources	Antibiotics (Basel)
Uekawa K, <u>Matsumura T</u> (7/17),Mukasa A.(他14名)	Histopathological evaluation of dopamine receptor D2 expression in symptomatic gonadotroph pituitary neuroendocrine tumors: a case series including a rare metastatic case responsive to a dopamine agonist.	Brain Tumor Pathology
Takeshita M, <u>Matsumura T</u> (2/17), <u>Araki E</u> (16/17),Kubota N.(他13名)	Fingertip skin autofluorescence as a non-invasive marker for vascular complications in patients with type 2 diabetes	Journal of Diabetes Investigation
Zhou Y, <u>Matsumura T</u> (2/15), <u>Araki E</u> (14/15),Kubota N.(他11名)	Hematopoietic dipeptidyl peptidase-4 deficiency promotes M2 macrophage polarization and attenuates atherosclerosis	Biochemical and Biophysical Research Communications
Arao H*,Kozuma Y*#(2/9), <u>Kawaguchi T</u> (4/9). <u>Matsushima-Nagata K</u> (5/9), <u>Noboru I</u> (6/9), <u>Suzuki Y</u> . (*equally contribution) (#corresponding author)(他3名)	Effects of artificial lung and roller pump on platelet morphology and activation during simulated extracorporeal circulation.	Int J Lab Hematol
Azuma T,Yamamoto T(3/5), <u>Kuroda M</u> (4/5), Watanabe M.(他1名)	Effectiveness of Implementing Hospital Wastewater Treatment Systems as a Measure to Mitigate the Microbial and Antimicrobial Burden on the Environment	Antibiotics
<u>Yamamoto T</u> , <u>Shitada C</u> , <u>Kawaguchi T</u> , <u>Narahara S</u> , <u>Kuroda M</u> .	Draft genome sequence of CTX-M-5 variant-carrying <i>Kluyvera ascorbata</i> isolated from river water in Kumamoto, Japan	American Society for Microbiology
Yamamoto M,Isono,S(3/5),Miyoshi M,(他2名)	"Predicting newly registered nurse turnover: A longitudinal analysis of motivation and engagement."	Collegian.
Saito Y, <u>Yamaguchi Y</u> (3/10), <u>Tanaka S</u> (4/10), Komohara Y.(他6名)	Rodent monocyte-derived macrophages do not express CD163: Comparative analysis using macrophages from living boreoeutherians	Developmental Dynamics
Sugano T, <u>Kuboshita R</u> (2/5),Hitosugi M.(他2名)	Effects of a History of Adductor-Related Groin Pain on Kicking Biomechanics and HAGOS Subscales in Male Soccer Players: A Comprehensive Analysis Using 1D-SPM	Applied Sciences
<u>Yamamoto T</u> , <u>Kubo T</u> .	Association between swallowing function, activities of daily living, and eating posture in patients with terminal cancer	Supportive Care in Cancer

著者・共著者	標題	掲載誌名
Naito D, Honda K(2/5) ,Ebihara S.(他2名)	Characteristics of Trunk Acceleration and Angular Velocity in Turning Movement in Post-Stroke Patients with High Risk of Falling	Sensors
Yamaki K, Matsubara S(3/6) , Shimamura T(4/6) , Miyazaki T(5/6) , Honda K(最終) .(他1名)	Relationship between explosive lower limb strength and impact force during landing in healthy young individuals	Sports Biomechanics
Naito D, Honda K(3/13) ,Ebihara S.(他10名)	Characteristics of Ground Reaction Force Variability During Walking in Post-Stroke Patients	Sensors
Shibuya R, Honda K(3/7) ,Ebihara S.(他4名)	A Longitudinal Study of Physical Function Factors Related to Lower Limb Circumduction During Gait in Acute Stroke Patients with Hemiparesis	Sensors
Akizuki K, Yamamoto R(4/6) ,Yabuki J.(他3名)	Task difficulty modulates motor learning benefits of balance exercises in community-dwelling older adults.	Experimental gerontology
Akizuki K, Yamamoto R(5/6) ,Kaneno T.(他3名)	Effects of self-control of feedback timing on motor learning	Frontiers in Psychology
Nakashima S, Miyazaki T(4/8) ,Kiyama R.(他5名)	Compensatory mechanisms during scapular plane abduction by increased scapulothoracic joint upward rotation: A musculoskeletal model simulation study	Biomedical Human Kinetics
Takeshita Y, Miyazaki T(5/11) ,Nishikawa T.(他8名)	Effect of hand support during squats on tibiofemoral and patellofemoral joint forces	Journal of biomechanics
Sasaki H, Miyazaki T(4/6) ,Taniguchi N.(他3名)	Menopausal hormone therapy shows superior efficacy to complementary and alternative medicine in treating symptomatic hand osteoarthritis in Japanese women during perimenopause	Women's health
Nakashima S, Miyazaki T(4/7) ,Kiyama R.(他4名)	Compensatory mechanisms to maintain glenohumeral joint stability in rotator cuff tears of differing severity during activities of daily living: A musculoskeletal model simulation study	PLOS One
Inoue T, Senba L.(最終) (他3名)	Enhanced Physical and Mental Function and Promotion of Social Participation in a Cerebral Palsy Patient Through Participation in Para-Jujutsu	Cureus
Inoue T, Senba L.(最終) (他5名)	Using AI-Based Gait Analysis to Establish a 5-Meter Walk Time Cutoff for Discriminating Alzheimer's Disease	Cureus
Kichize Y, Matsuo T.(最終) (他4名)	Facilitatory Effects of Leftward Prism Adaptation on Verbal Fluency in Japanese Speakers: A Randomized Controlled Trial	Cureus
Kodama N, Hatazoe R , Kotegawa K .	Brain activation during vocal motor imagery: A pilot functional near-infrared spectroscopy (fNIRS) study	Experimental Brain Research
Kotegawa K ,Yasumura A.(他4名)	Effect of Computerized Training in Logical Thinking on Autistic Children: A Pilot Study	Asian Journal of Occupational Therapy
Nagatomo M .	Impairment of Number Concepts and Calculations: Case of an Adult with Developmental Dyscalculia	高次脳機能研究
Kodama N, Hatazoe R(4/5) ,Hashimoto K.(他2名)	Acoustic Analysis of Apraxia of Speech in a Japanese Patient With Nonfluent/Agrammatic Variant Primary Progressive Aphasia: A Case Study	Cureus
Sakamoto M, Takenaga K .	Nonanalytic structure of effective potential at finite temperature on compactified space	Phys. Rev. D
Ishibashi S, Araki E(4/10) ,Yamashita S.(他7名)	Pharmacokinetics and Safety of Pemafibrate in Patients with both Dyslipidemia and Severe Renal Impairment: A Phase 4 Study	J Atheroscler Thromb
Yamashita S, Araki E(2/9) ,Ishibashi S.(他6名)	Clinical Pharmacology of Pemafibrate Extended-release Formulation in Patients with Hypertriglyceridemia-A Phase 2, Multicenter, Active-controlled, Randomized, Single-blind, Crossover study	J Atheroscler Thromb
Fukuda K, Araki E(4/5) ,Yamagata K.(他2名)	Age-Related Glucose Intolerance Is Associated with Impaired Insulin Secretion in Community-Dwelling Japanese Adults: The Kumamoto Koshi Study.	Biomedicines
Wada T, Matsumura T(10/14) , Araki E(13/14) ,Kubota N.(他10名)	Orally administrated acetate inhibits atherosclerosis progression through AMPK activation via GPR43 in plaque macrophages.	Atherosclerosis
Arai H, Araki E(3/9) ,Ishibashi S.(他6名)	Long-Term Effects of Extended-Release Pemafibrate Tablets on Dyslipidemia and Safety in Triglyceridemic Patients: A Phase 3, Multicenter, Randomized, Open-Label, Parallel-Group Study.	J Atheroscler Thromb

令和7(2025)年度 著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名
Yamashita S, <u>Araki E(2/9)</u> ,Ishibashi S.(他6名)	Effects of Pemafibrate on Cholesterol Synthesis and Absorption: a Post-Hoc Subgroup Analysis of a Phase 2 Clinical Trial.	J Atheroscler Thromb
Yamashita S, <u>Araki E(2/11)</u> ,Ishibashi S.(他8名)	Efficacy for LDL-C-lowering and safety of pemafibrate extended-release formulation in patients with statin-intolerant hypercholesterolemia: A phase 3 multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group trial.	J Clin Lipidol
Shen J, <u>Matsubara S(4/13)</u> ,Nakamura S.(他10名)	Accelerometer-Based Gait Analysis as a Predictive Tool for Mild Cognitive Impairment in Older Adults	Sensors
Nakayama K, <u>Hatono Y(2/5)</u> ,Tagaki M.(他2名)	Empowering Japanese Mothers with Infants After a Cancer Diagnosis: A Qualitative Analysis.	Asian Qualitative Inquiry Journal,
Matsuura H, <u>Hatono Y.</u>	Community-level social capital and participation in health checkups among older adults in Japan: a cross-sectional study	Frontiers in Public Health
<u>Shitada C,Takahashi M(3/4)</u> , <u>Kuroda M(最終)</u> .(他1名)	A novel ribosomal protection protein Tet(T2) in the tetracycline-resistant <i>Clostridium tetani</i> isolated from livestock bovine faeces	Journal of Global Antimicrobial Resistance
<u>Shitada C,Takahashi M(5/6)</u> , <u>Kuroda M(最終)</u> .(他3名)	Characterization of a Highly Toxigenic <i>Clostridium tetani</i> Strain from a Calf's Castration Site	Veterinary sciences
Tanoue Y, <u>Shitada C(2/11)</u> , <u>Sakamoto C(5/11)</u> , <u>Kumeda K(7/11)</u> , <u>Takahashi M(最終)</u> .(他6名)	Ganglioside Binding Assay: A Complementary Approach for Enhanced Tetanus Toxoid Quality Control	Toxins
<u>Shitada C,Sakamoto C(2/5)</u> , <u>Kumeda K(3/5)</u> , <u>Takahashi M(最終)</u> .(他1名)	An ELISA-Based Alternative to Mouse Bioassays for Quantitative Evaluation of Tetanus Toxin	Toxins
<u>Sakamoto C,Shitada C(2/9)</u> , <u>Takahashi M(最終)</u> .(他6名)	Complete Neutralization of Tetanus Neurotoxin by Alpaca-Derived Trivalent Nanobodies Aimed at Veterinary Medical Applications	Veterinary Sciences
青木学	多剤耐性HIV-1変異体にも高い活性を発揮するHIV-1プロテアーゼ阻害剤の開発	熊本保健科学大学研究誌
伊藤隆明,山崎昌哉,川畑茂	小細胞肺癌の分子分類とその特徴	病理と臨床
嶋田かをる,立石多貴子,山鹿敏臣,松本珠美,小倉正義,日下部貴史,西村優紀美, Peter Bernick,船越高樹	障害学生支援と修学のための『要件や基準』～ 東京大学 PHED SIG-RS 策定 障害学生支援スタンダードを活用したシラバス確認 ～	臨床検査学教育
久松美佐子,山下亜矢子,根路銘安仁,末永真由美,前田則子	精神科病院のない離島において保健・医療・福祉サービス提供者が直面する精神障害者の地域生活支援の課題	看護科学研究
久松美佐子,早木幸江,江上史子,嶋田美香子,山下亜矢子	精神看護学における視聴覚教材を用いたシミュレーション演習ー大学教育改革推進プログラム実践報告ー	熊本保健科学大学研究誌
<u>村上美華</u> ,国府浩子	補助化学療法中の初発乳がん患者の倦怠感への取り組み	日本がん看護学会誌
<u>村上美華</u> ,国府浩子	補助化学療法中の初発乳がん患者における倦怠感と歩数の推移:第1コースから第2コース終了までの観察研究	熊本保健科学大学研究誌
<u>甲斐村美智子</u>	コロナ禍に発生した熊本豪雨災害による母子の中長期的メンタルヘルスの実態と関連要因	日本母性看護学会
永田千鶴,澤崎美香,太田友子,清永麻子,田中愛子	認知症グループホームの職員を対象とした看取り研修プログラムの効果の実証ー混合研究法を用いてー	山口医学
<u>磯野さよ子</u> ,青石恵子	勤労者におけるセルフマネジメントの概念枠組みー勤労男性に着目してー	熊本大学医学部保健学科紀要
松尾健志郎, <u>枝尾久美</u> ,阿部寛樹, <u>久保高明</u>	ホエイが健常成人のメンタルヘルスに与える効果についてのクロスオーバー試験による検討	熊本保健科学大学研究誌
坂田圭士郎, <u>宮本恵美</u> , <u>久保高明</u> , <u>爲近岳夫</u> , <u>古閑公治</u>	姿勢の違いによる嚥下機能への影響についての検討	熊本保健科学大学研究誌
<u>福永貴之</u> , <u>小牧龍二</u> , <u>柳原理久</u> , <u>房野良樹</u> , <u>申敏哲</u>	ベンゾピレン誘発神経障害に対する5-Deazaflavin Derivative (TND)の神経保護作用:行動および分子レベルでの解析	熊本保健科学大学研究誌
<u>小牧龍二</u> , <u>福永貴之</u> , <u>申敏哲</u>	舌への体性感覚刺激がADHDモデルラットに及ぼす影響	熊本保健科学大学研究誌

著者・共著者	標題	掲載誌名
宮崎宣丞, 竹下康文, 荒木草太	脊椎疾患におけるウェアラブルセンサーで計測した加速度を用いた歩行分析 -A Scoping Review-	理学療法学
下世大治, 宮崎宣丞, 荒木草太, 竹下康文, 松浦央憲, 赤崎義彦, 福岡弘樹, 川田将之, 木山良二	ウェアラブルセンサーによる関節角度のリアルタイムフィードバックを用いた歩行練習の介入効果: 人工膝関節置換術後患者 1 例による検討	支援工学理学療法学会誌
中辻晋太郎, 松澤雄太, 宮崎宣丞, 中井雄貴, 川田将之, 木山良二	携帯型超音波画像装置を用いた患者参加型のリアルタイムバイオフィードバックが腹横筋の持続収縮へ与える影響	臨床と理学療法
久保温, 平尾文, 仙波梨沙, 溝田勝彦, 尾鷲百佳子	5 歳児の年次体力推移—2018 年と 2023 年を比較して	保健医療学雑誌
李知炫, 松尾崇史, 田中聡, 藤原和彦, 小松洋平, 仙波梨沙	地域在住高齢者における主観的生活機能評価としてのWHODAS 2.0 12項目版の検討	作業療法佐賀
仙波梨沙, 栗原百佳子, 徳一優, 齊藤早紀, 岡奈津実, 松下祐女, 李知炫, 久保温子	療育経験の有無による母親の育児ストレスの差異—Parenting Stress Index Short Form (PSI-SF)を用いた項目別分析による検討—	作業療法佐賀
高島理沙, 伊藤文人, 松尾崇史	作業がつなぐ未来 - コミュニティー・シェッドと作業療法士の挑戦	作業療法ジャーナル
松尾崇史, 藤原和彦, 小松洋平, 仙波梨沙	地域在住高齢者における孤独・社会的孤立と注意転換能力との関連 -Trail Making Testを用いた探索的検討-	作業療法佐賀
藤原和彦, 石田恭涼, 瀧下勇介, 小松洋平, 松尾崇史, 仙波梨沙	農村部在住高齢者の買い物困難の有無と認知機能・生活機能の関連	作業療法佐賀
小手川耕平	注意機能およびワーキングメモリ検査間の関連とその特性—視空間性ワーキングメモリに着目して—	熊本保健科学大学研究誌
吉村友希, 戸田真志, 久保田真一郎, 鈴木克明	授業アンケートの自由記述に基づく改善は臨床推論学習に効果があるのか—精神障害領域作業療法における授業を対象として—	教育システム情報学会誌
吉村友希, 戸田真志, 久保田真一郎, 鈴木克明	精神障害領域作業療法プログラムの改善段階が学習成果に及ぼす影響——イメージ・自信・実習自己効力感に着目して——	教育システム情報学会誌
井崎基博	自閉スペクトラム症のある中学生に対する継次尺度の弱さに配慮した障害特性の説明	第27回日本KABCアセスメント学会発表抄録集
兒玉成博, 畑添涼, 橋本幸成, 今富摂子, 高倉祐樹, 小谷優平, 宮崎彰子	プロソディ障害を伴う原発性進行性発語失行 (Primary Progressive Apraxia of Speech: PPAOS) の1例—音響分析による発話特徴の評価—	高次脳機能研究
畑添涼, 萬野信子, 佐藤達矢	左島皮質を中心とした梗塞で複雑幻視を呈した一症例	神経心理学
畑添涼, 水本豪, 松本哲夫	左前代脳動脈領域の梗塞後に情動反応の障害によるアパシーが特徴的であった症例	総合リハビリテーション
池寄寛人, 松原慶吾, 宮本恵美, 畑添涼, 平江満充帆, 水本豪	言語聴覚士養成課程の学生におけるOSCE・臨床実習を通しての自己効力感の変化	言語聴覚研究
阿部朱美, 嶋野洋子, 寺岡佐和	住民グループが地域づくりに発展するための保健師による支援の特徴—保健師の経験年数別と住民グループの類型別の比較—	日本公衆衛生看護学会誌
永井智子, 山崎真帆, 一色喜保, 窪田志穂, 齊藤瑛梨, 鈴木純子, 田村晴香, 戸渡洋子, 中島富志子, 渡邊千秋	ラダーI研修修了生の会 ラダーIつながる会の活動報告と今後の展望	保健師教育
飯山有紀, 中島洋子	軽度認知症と診断された高齢者の診断直後の語りにみられる思いの特徴と看護の方向性	日本看護福祉学会誌
飯山有紀, 横井靖子, 内村香代子	脳卒中患者への緩和ケアに関する相談の現状—脳卒中看護認定看護師と緩和ケアチーム間の相談内容の質的分析—	熊本保健科学大学研究誌
飯山有紀, 横井靖子, 内村香代子	脳卒中患者への緩和ケアに関する文献レビュー	日本脳神経看護学会誌
岩村純子, 澤崎美香	長期実習における看護学生のストレスとレジリエンスの実態からメンタルヘルス維持への考察	熊本保健科学大学研究誌
大村由紀美, 松本智晴, 前田ひとみ	病院の看護教育者のためのコンピテンシー自己評価尺度の開発	日本看護研究学会雑誌
川本紀子, 前田ひとみ, 松本智晴	新人看護師のキャリア・アダプタビリティ	日本看護科学学会雑誌

令和7(2025)年度 著書論文歴

【査読無】

著者・共著者	標題	掲載誌名
青木学,山本隆敏,徳永郁子,澤崎美香,荒木善光,申敏哲,山野克明,井崎基博,田中恵理,河瀬晴夫	The 10th Allied Health Science Symposium 2025 開催報告	熊本保健科学大学研究誌
關谷暁子,小笠原篤,齋藤貴之,鈴木真紀子,西尾美和子,木村明佐子,上妻行則,榊原佳奈枝,佐藤隆司,高橋祐輔,中原正子,中前雅美,増田裕太,水上紀美江,吉田保子	血液検査学 臨地実習前技能到達度評価(検査血液学)における評価項目の作成および必修度に関するコンセンサスの調査	臨床検査学教育
三輪富士代, 吉富ゆかり	病院のこども憲章 最善の利益に向けて、“こどもまんなか”の「こども憲章」を実現させるために	小児看護
菅仁美, 三輪富士代, 清原智子, 松岡聡美	小児看護の医療の場における災害時の看護管理	小児看護
三輪富士代,田阪祐子	こどもと家族を対象とした看護研究における倫理的配慮	小児看護
三輪富士代	看護における倫理的課題	こどもの病態とケア ナースと専門職のために
浅田匡,井上加奈子	『進化する教師』 第9章発達支援関係 メンタリング	金子書房
甲斐村美智子	幼児の就寝時刻の理想と現実に関する母親の記述分析 テキストマイニングによる検討	地域ケアリング
原寛美, 吉尾雅春編, 渡辺雅彦, 久保高明, 他執筆	脳卒中理学療法の理論と技術第5版	
久保高明	必勝カコムンPTOT共通(解剖・生理・運動学)	
久保高明	必勝カコムンPTOT共通(臨床医学)	
久保高明	必勝カコムン作業療法士	
久保高明	必勝カコムン理学療法士	
枝尾久美,久保下亮	スポーツ現場支援における専門人材育成の方向性 ー理学療法士とスポーツトレーナー資格制度の連携の可能性を探るー	熊本保健科学大学研究誌
宮崎宣丞,荒本草太,木山良二	ウェアラブルセンサーを用いた歩行練習の臨床応用	月刊メディカル・サイエンス・ダイジェスト
宮崎宣丞	臨床現場におけるウェアラブルセンサーを用いた効果的な歩行練習の実現に向けた取り組み	地域ケアリング
小手川耕平	歩行運動イメージの個人差とバーチャルリアリティ介入の展望	Medical Science Digest
吉村友希	採録論文ハイライト42巻	教育システム情報学会誌
吉村友希	精神障害領域作業療法の臨床実習において必要となるスキル修得を目的とした授業構築に関する研究 ーオーセンティック学習に基づいてー	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻博士論文
吉村友希	採録論文ハイライト43巻	教育システム情報学会誌
井崎基博	最新言語聴覚学講座 心理学	
藤野博監修,井崎基博	標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第4版	
池寄寛人:藤田郁代(監),菅野倫子,谷合真一(編)	標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論	
松原慶吾	嚥下関連筋群のレジスタンス運動	ディサースリア臨床研究
松尾朗	地域子ども支援から考える「チームとしての学校」への外部専門家の介入効果	子ども社会研究
杉野健太郎,下楠昌哉,町本亮大,桐山恵子,中村美帆子,田中恵理,佐々木優,相原直美,村山瑞穂	スポーツする英語文学	金星堂
荒木田美香子,五十嵐歩,鳩野洋子,田高悦子編	ヘルスプロモーション	地域看護学
飯山有紀	超高齢者看護と看護倫理: 倫理的課題をとらえなおす	へるす出版
境信哉,佐々木千穂,竹島久志,伊藤和幸,	脊髄性筋萎縮症(Ⅰ型)児を対象としたスイッチを用いた系統的アプローチの紹介	北関東保健医療科学
志多田千恵,村田正太,黒田誠,高橋元秀	新興・再興感染症2025 (破傷風)	

【国際学会】

※本学の教員・研究員・学生には下線

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Takagi F, Ono T, Takahashi N, Minami Y, Nakaseko C, Iriyama N, Fujimaki K, Kakahana K, Ogasawara Y, Okada M, Tauchi T, Atsuta Y, Suzuki R, Yamamoto K, Ohtake S, Miyamoto T, Ohnishi K, Sakaida E, Fujisawa S, Kobayashi Y, <u>Kawaguchi T</u> , Kizaki M, Kiyoi H, Miyazaki Y, Matsumura I.	The EUTOS Long-Term Survival Score Predicts Failure-Free Survival in Chronic Myeloid Leukemia Patients in the Era of Second-Generation Tyrosine Kinase Inhibitors: Analysis from the JALSG-JSH CML Study.	The 30th European Hematology Association Congress
Obara N, Ueda Y, Ueno S, Sakurai M, Hosokawa K, Murata T, Fukuoka Y, Hayama N, Yamashita M, Ogawa Y, Usuki K, Ikezoe T, <u>Kawaguchi T</u> , Hosen N, Kanakura Y, Gotoh A, Nishimura J.	Treatment burden in patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria (PNH) treated with intravenous C5 inhibitors: an in-depth interview survey study.	The 30th European Hematology Association Congress
<u>Tanabe K</u> , <u>Kozuma Y</u> .	IgE class switch recombination and differentiation into plasma cells are regulated by PP2A family molecule in human peripheral blood B cells	19th International Congress of Immunology (IUIS 2025)
<u>Matsushima-Nagata K</u> , <u>Sugiuchi H</u> , <u>Anraku K</u> , Takao T, Kondo Y, Ishitsuka Y, Irikura M, Irie T, <u>Matsumura T</u> , <u>Araki E</u> , Sumida M, Katayama Y, Kayahara N.	A homogeneous assay to determine high-density lipoprotein subclass cholesterol in serum	第10回 Allied Health Science Symposium AHSS
<u>Hisamatsu M</u> , Yamashita A, Maeda N, Nerome Y.	Factors Related to the Quality of Life of People with Mental Disorders Living in Remote Islands	PRCP&WACP Joint Conference 2025 Tokyo
Maeda N, Furukawa H, Nishimura Y, <u>Hisamatsu M</u> .	Workplace Support for Foreign Care Workers and Its Influence on Job Satisfaction	第29回EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)
<u>Isono S</u> , Aoishi K.	A Conceptual Framework of Self-Management Among Working Men in Japan	The 29th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)
<u>Yamaguchi Y</u> , <u>Fujimoto Y</u> , <u>Kumagai M</u> , <u>Kawakami K</u> , <u>Nishinakamura R</u> , <u>Tanaka S</u> .	Homeoproteins Six1 and Six4 are required for the increase of mouse primordial germ cell precursor population	53rd Naito Conference on Germ Cell Biology
<u>Iwashita Y</u> , <u>Towatarai Y</u> , <u>Tamechika T</u> , <u>Araki Y</u> , <u>Tanaka E</u> , Omori H.	Readiness for Aging in Place at Home	World Physiotherapy Congress 2025
<u>Yamamoto R</u>	The effects of Self-controlled feedback on learning range of motion measurement techniques and self-efficacy among physiotherapy students.	World Physiotherapy Congress 2025 (Tokyo, Japan)
Takashima R, Hirayama R, Sakaue M, Ito A, <u>Matsuo T</u> , Okada H, Stevenson C, McNamara N, Saeki K.	Co-producing the Men's Shed concept in Japan: A participatory action research study	The 19th WFOT Congress
<u>Tanaka E</u>	Diseases, Care, Technology, and Joyce	IASIL Galway 2025: Technology and Ireland
Ikeda T, <u>Hatono Y</u> .	Content Validity evaluation of public health nurses' medication support items for foreign-born patients with tuberculosis.	International Collaboration for Community Health Nursing Research
Fujita T, Iwaki M, <u>Hatono Y</u> .	Effects of Tobacco Smoking on Chronic Obstructive Pulmonary Disease on Patients with Parkinson Disease	Global Network for Public Health Nursing
<u>Hatono Y</u> , Suzuki H, Shimazu T.	Development of a Scale for Assessing the Role Performance of Supervising Public Health Nurses in Japanese Health Centers.	East-Asian Forum of Nursing scholars.
Yagi Y, Takashima R, <u>Sasaki C</u> , Takiguchi T,	Highly Intelligible Text-to-Speech System Based on Weighted Averaging of Parameters for Individuals with Spinal Muscular Atrophy	. ASSETS '25: The 27th International ACM SIGACCESS Conference on Computers and Accessibility

令和7(2025)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Kuroda M, Shitada C, Kohda T, Takahashi M.	A novel ribosomal protection protein Tet(T2) in the tetracycline-resistant <i>Clostridium tetani</i> isolated from livestock bovine feces. (ClostPath2025)	ClostPath2025
Shitada C, Kohda T, Takahashi M, Kuroda M.	A Case of High Toxin-Producing <i>Clostridium tetani</i> Isolated from Surgical Site Induration Following Castration of a Calf	ClostPath2025

【全国学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
林秀幸, 山本景一, 中田浩智, 川口辰哉	過去10年における熊本県の薬剤耐性腸内細菌目細菌検出動向.	第99回日本感染症学会総会・学術講演会/第73回日本化学療法学会総会 合同学会
川口辰哉	抗微生物薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス2024年度改訂版の概要. シンポジウム6「抗菌薬適正使用支援プログラム(ASP)実践のためのガイダンス」	第99回日本感染症学会総会・学術講演会/第73回日本化学療法学会総会 合同学会.
Kimura Y, Tokuhira M, Tabayashi T, Mitsumori T, Iwanaga E, Ishikawa M, Watanabe N, Sato E, Nakayama H, Iriyama N, Fujita H, Takaku T, Ando M, Nakazato T, Miura K, Kawaguchi T.	Allogenic stem cell transplant outcomes in chronic myeloid leukemia based on the CML-CSG Database.	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
Tokuhira M, Kimura Y, Tabayashi T, Mitsumori T, Iwanaga E, Ishikawa M, Watanabe N, Sato E, Nakayama H, Iriyama N, Fujita H, Takaku T, Ando M, Nakazato T, Miura K, Kawaguchi T.	Impact of nilotinib initiation duration and dose modification in patients with ND-CML-CP	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
Liao J, Soda Y, Yamaguchi K, Nakamura N, Ogami K, Ueno S, Kobari Y, Hirai Y, Mushino T, Hanaoka Y, Sonoki T, Kawaguchi T, Furukawa Y, Okada T, Tani K.	Mechanisms of hematopoietic dysfunction in PNH: whole genome sequencing of PNH patient-derived iPSCs	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
川口辰哉	PNH近位補体薬治療の光と影 (イーブニングセミナー)	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
Ueno S, Kawaguchi T, Yonemura Y, Yasunaga J.	Successful transfusion avoidance only during dual C5 and C3 inhibition in a refractory PNH case.	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
Kawaguchi T, Ueno S, Yonemura Y, Yasunaga J.	Successful treatment of three PNH patients with danicopan regardless of the C5 inhibitor type used.	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
Takagi F, Ono T, Takahashi N, Minami Y, Nakaseko C, Iriyama N, Fujimaki K, Kakihana K, Ogasawara Y, Okada M, Tauchi T, Atsuta Y, Suzuki R, Yamamoto K, Ohtake S, Miyamoto T, Ohnishi K, Sakaida E, Fujisawa S, Kobayashi Y, Kawaguchi T, Kizaki M, Kiyoi H, Miyazaki Y, Matsumura I.	The ELTS score predicts failure-free survival in CML patients in the era of second-generation TKIs.	The 87th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology
青木学, Debananda Das, 満屋裕明	HIV-1のdolutegravir耐性発現メカニズムの解明	第39回日本エイズ学会学術集会・総会
富田聖, 福田智輝, 立石大, 知念拓磨, 青木学, 島垣和功, 福田亮太, 坂本亜里紗, 大塚雅巳, 藤田美歌子, 安楽健作	創薬を指向したHIV-1 Gag MAドメインとカルジオリピンとの結合に関する研究	第39回日本エイズ学会学術集会
岡本繭, 松村剛, 波多香織, 本郷恵未, 藤本有紀, 眞壁知子, 貞廣佳代, 大久保侑馬, 窪田直人	糖尿病患者の野菜摂取タイミングと摂取量及び食事摂取時間に関する9年間の変化	第68回日本糖尿病学会年次学術集会
羽根田昌樹, 福田一起, 大村和寛, 竹下実, 津山友徳, 井形元維, 松村剛, 荒木栄一, 山縣和也, 窪田直人	加齢に伴うインスリン分泌能低下に関与する因子の解明: 熊本合志スタディ	第68回日本糖尿病学会年次学術集会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
松村剛, 竹下実, 八木喜崇, 吉永智昭, 周鈺琦, 大久保侑馬, 山中幹宏, 荒木栄一, 窪田直人	糖尿病患者の血糖変動に対する指尖部AGE測定 of 臨床的意義	第74回日本体質医学会総会
松村剛, 本郷恵未, 岡本繭, 波多香織, 藤本有紀, 佐藤美希, 竹下実, 窪田直人, 荒木栄一	2型糖尿病における通常間食の代用食としての天然蜂蜜摂取の糖代謝に与える影響	第75回日本体質医学会総会
周鈺琦, 松村剛, 吉永智昭, 斎藤彰, 荒木栄一, 窪田直人	DPP4欠損によるマクロファージM2分極化とその動脈硬化進展への影響	第75回日本体質医学会総会
竹下実, 松村剛, 山中幹宏, 吉永智昭, 周鈺琦, 窪田直人, 荒木栄一	糖尿病性血管合併症の新たなマーカーとしての指尖部AGEs測定法の有用性	第75回日本体質医学会総会
吉永智昭, 松村剛, 窪田直人	内皮由来ミトコンドリア活性酸素種が肥満関連アテローム性動脈硬化症に及ぼす影響	第29回アディポサイエンス・シンポジウム
上妻行則, 荒尾ほほみ, 古垣達也, 川口辰哉, 平松祐司, 鈴木保之	開心術中・術後の出血は、体外循環に伴う血小板の質的変化・機能低下が原因である	第47回日本血栓止血学会学術集会
原口日菜子, 荒尾ほほみ, 片平帆風, 椎葉瞳子, 山口明咲日, 川口辰哉, 鈴木良介, 清水信行, 山本哲哉, 上妻行則	人工髄液は抗血小板薬存在下で抑制された血小板活性化を回復できる	第47回日本血栓止血学会学術集会
登尾一平, 内場光浩, 川口辰哉, 安永純一郎, 上妻行則	脱シアル化血小板由来の生理活性物質が肝がん細胞株HepG2の増殖に及ぼす影響	第47回日本血栓止血学会学術集会
原口日菜子, 荒尾ほほみ, 片平帆風, 椎葉瞳子, 山口明咲日, 川口辰哉, 鈴木良介, 清水信行, 山本哲哉, 上妻行則	人工髄液は抗血小板薬により抑制された血小板機能を回復できる	第19回日本臨床検査学教育学会学術大会
川田 空輝, 登尾 一平, 上野 佑, 古賀 俊亮, 中村 将己, 吉田 剛士, 上妻行則	輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血病細胞株を用いた単球貪食試験の改良	第19回日本臨床検査学教育学会学術大会
木永文翔, 安藤愛華, 岡崎萌花, 瀧川未来, 増田彩乃, 松岡瑞穂, 元島優実, 西田彩蓮, 川田空輝, 原口日菜子, 荒尾ほほみ, 上妻行則	体外循環時に使用されるヘパリンが血小板機能に与える影響の基礎検討	第19回日本臨床検査学教育学会学術大会
原口日菜子, 荒尾ほほみ, 片平帆風, 椎葉瞳子, 山口明咲日, 川口辰哉, 鈴木良介, 清水信行, 山本哲哉, 上妻行則	人工髄液は抗血小板薬により抑制された血小板機能を回復させる	日本医療検査科学会第57回大会
田邊香野, 上妻行則	B細胞のIgE産生誘導刺激による分化制御にはPP2Aファミリー分子が関与する	第74回 日本アレルギー学会学術大会
荒尾ほほみ, 古垣達也, 縮恭一, 川口辰哉, 平松祐司, 鈴木保之, 上妻行則	体外循環による血小板の質的変化・機能低下が開心術後の出血傾向の要因となり得る	第63回日本人工臓器学会大会
Tanabe K, Kozuma Y.	Lymphocyte function-associated antigen-1 is involved in the regulation of IgE class switch recombination and production in human peripheral blood B cells	第54回 日本免疫学会学術集会
村上美華, 尾崎香代, 石村あさみ, 国府浩子	補助化学療法を受ける乳がん患者の倦怠感セルフマネジメントを支援するケアプログラムの開発と評価	第40回日本がん看護学会学術集会
山下垂矢子, 岡崎愉加, 中嶋貴子, 泉川桂子, 兼信宏恵, 久松美佐子, 梶谷さとこ, 原直美	アルコール使用障害を有する若年女性のウェルビーイング向上を目指した教材改訂に伴う実用性の検討	第47回日本アルコール関連問題学会
川口弥恵子, 平田伸子	特定妊婦支援における助産師の多職種連携能力——医療機関から地域へ切れ目のない支援の実現のために	第66回日本母性衛生学会学術集会
増満誠, 池田智, 上田智之, 緒方浩志, 森雄太, 木村涼平, 西村和美, 本武敏弘, 掛田遥, 不動真由美, 江上史子, 松村友紀子, 島田信, 植田愛, 田原千晶, 手島聖子, 清原智佳子	あれから7年、看護教師塾「かんてら」の足跡と未来～大学と領域を超えた若手教師の共同創造～(交流セッション)	日本看護学教育学会 第35回学術集会
甲斐村美智子	子どもの理想と現実の就寝時刻にギャップが生じる要因テキストマイニングを用いた検討	第27回日本母性看護学会学術集会
甲斐村美智子	日中の養育場所別にみた幼児の就寝時刻に影響する要因	第66回日本母性衛生学会総会・学術集会
山本麻起子, 磯野さよ子, 高橋登志枝, 河合麻衣子, 三好麻実子, 稲野辺奈緒子	新卒看護師の成長動機づけとワークエンゲージメントが離職意図に及ぼす影響—横断的調査研究—	日本看護学教育学会第35回学術集会
Yamaguchi Y, Kawakami K, Nishinakamura R, Tanaka S.	Homeoproteins Six1 and Six4 are required for the increase of mouse primordial germ cell precursor population.	第58回 日本発生生物学会

令和7(2025)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Yamaguchi Y, Tam P, Kiyonari H, Tanaka S.	Importin13 is required for the germ cell development in mice.	第48回 日本分子生物学会
岩下佳弘, 古閑公治, 久保高明, 安田大典, 爲近岳夫, 渡邊智, 奥川洋司, 中西信之, 松本圭史, 飯山準一	1,8-cineole添加マスクが若年健常者の脳機能や心理面におよぼす影響	第90回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
Doi A, Sakata R, Hara Y, Ikeda Y, Tanaka T, Shin M.	Unilateral spatial neglect-like behavior in right-brain injury animals without sensorimotor disturbance	第23回日本神経学療法学会学術大会
土井篤, 西山恵臣, 前畠楓也, 太池一真, 村本太陽, 松本悠奨, 田中孝太, 若田 望, 申敏哲	リハ介入効果検証に繋げるための神経細胞の振る舞い評価—成熟マウス大脳皮質における単一神経細胞を用いた電気生理学的記録の試み—	第30回日本基礎理学療法学会学術大会
土井篤, 松本雅輝, 迫口ほのか, 小田恭歌, 中野亜寿華, 谷口みさと	坐骨神経挫滅モデルラットに対する全身振動刺激は坐骨神経機能回復及び腓腹筋々量増加を促進する	第30回日本基礎理学療法学会学術大会
岡本彬, 土井篤, 福田耕平, 清浦康平, 中尾悠人	経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位と脳波は自転車エルゴメーター運動後に、異なる神経修飾作用を生じる	第23回日本神経学療法学会学術大会
本田啓太, 野口大助, 濱崎寛臣, 中西俊人	マーカーレス動作解析システムによる脳卒中患者の歩容可視化に関する予備的研究	第23回日本神経学療法学会学術大会
小原卓己, 大倉俊, 葛原碧海, 今井英文, 宮良広大, 田中康則, 本田啓太, 河崎靖範	回復期入棟時Stroke Impairment Assessment Setと退棟時歩行自立の関連及びカットオフ値の検討	第23回日本神経学療法学会学術大会
蒼志帆, 田中昭成, 野口大助, 三宮克彦, 本田啓太, 中西俊人, 時里香	脳卒中片麻痺患者の足部変形に対する手術療法前後の歩容変化 ～マーカーレス動作解析を用いた症例報告～	第23回日本神経学療法学会学術大会
岩切心優人, 本田啓太, 宮崎宣丞, 嶋村剛史, 松原誠仁, 荒木栄一	健常若年男性におけるテイクオフ動作中の床反力-時間曲線と下肢運動力学的指標の関係	第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会
嶋村剛史	AI骨格角度検出アプリを用いた起立・着座動作解析手法の検証	第14回日本支援工理学療法学会
宮崎宣丞, 本田啓太, 嶋村剛史, 松原誠仁, 荒木栄一	超音波画像診断装置を用いた膝関節自動運動中における大腿直筋の動態解析の信頼性	第30回日本基礎理学療法学会学術大会
宮崎宣丞, 本田啓太, 嶋村剛史, 松原誠仁, 荒木栄一	若年健常成人男性における膝関節伸展筋力と膝関節自動運動中の大腿直筋の収縮動態との関連	第12回日本スポーツ理学療法学会学術大会
山野克明	作業療法士が促進する幸福について考える—文献調査による検討—	第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
仙波梨沙, 尾鷲百佳子, 藤原和彦	保護者と教員の認識のずれを減らす橋渡しの支援	第60回日本発達障害学会
仙波梨沙, 藤原和彦, 尾鷲百佳子, 伊藤恵美, 小松洋平	地域在住高齢者における買い物時の物品探索行為と性別による特徴	第59回日本作業療法学会
山口桃菫, 早野真菜, 仙波梨沙, 松尾崇史	地域在住高齢者の社会的孤立と健康—百歳体操参加者を対象にした調査研究—	第59回日本作業療法学会
早野真菜, 山口桃菫, 仙波梨沙, 松尾崇史	地域在住高齢男性の主観的幸福感到影響を及ぼす要因について	第59回日本作業療法学会
山園大輝, 松尾崇史, 丸田道雄, 川口京介, 森内剛史	地域在住男性における社会的孤立・孤独・所属集団と飲酒の関連について	第59回日本作業療法学会
松尾崇史, 森内剛史, 丸田道雄, 爲近岳夫, 仙波梨沙	日本人男性の孤独感や健康面に対するメンズシェッドの効果検証	第59回日本作業療法学会
吉村友希, 戸田真志	PAC分析による精神障害領域臨床実習でのスキル活用に関する 作業療法学生の認識調査	第50回教育システム情報学会全国大会
吉村友希	精神障害領域作業療法教育における「教えにくさ」の構造—教員の自由記述分析による教授過程の可視化—	日本教育工学会 2026年春季全国大会
坂田潤哉, 緒方練人, 藤井廉, 小手川耕平	VRデバイスを用いた介入による注意機能への効果—視空間性ワーキングメモリに着目して—	第62回日本リハビリテーション医学会学術集会
大塚開成, 小手川耕平, 山野克明, 寺本渉	健常成人における箸の使用を意図した際のイメージの鮮明度と視線の関係	第59回日本作業療法学会
大原寛之, 後藤慎一, 山口麻紀, 草野 友美, 松本緑, 藤田靖之, 井上知哉, 壺岐尾優太	治療および療養の場の意思決定支援に難渋した、高齢独居の多発骨転移を伴う去勢抵抗性前立腺癌の1例	第30回日本緩和医療学会学術大会
庄山創, 壺岐尾優太, 吉田佳弘	短期間のマインドフルネス瞑想により抑うつ症状の改善を認めた高齢の急性リンパ性白血病患者1症例	第30回日本緩和医療学会学術大会
井崎基博	自閉スペクトラム症のある中学生に対する継次尺度の弱さに配慮した障害特性の説明	第27回日本K-ABCアセスメント学会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
井崎基博	CLD児における心の理論能力と学校適応	日本発達心理学会第36回大会
池寄寛人, 松原慶吾, 水本豪	若手言語聴覚士における自己効力感と職業継続意思の関連性	第51回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
洲川貴大, 池寄寛人	音声アプリを用いた代償手段が移動時に有用であった左半側空間無視の1例	第26回日本言語聴覚学会
田代丈二, 竹谷剛生, 蓼田健太, 田端啓那, 濱田美帆, 濱田雄仁, 小田原守, 池寄寛人	卒前教育から卒後教育へシームレス化を目指して～県士会による教育支援体制の構築(第3報)	第26回日本言語聴覚学会
池寄寛人, 曾山直宏	初期アルツハイマー病に伴うカテゴリー特異性を呈した語義失語の一例	第49回日本神経心理学会学術集会
池寄寛人	学習障害の病態とメカニズム	第49回日本神経心理学会学術集会
隈元将志, 松原慶吾	急性期治療のために入院した高齢者が嚥下障害を発症する要因の検討	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
丸岡由佳, 富田文子, 原口実沙, 平江満充帆, 飯田一成, 松崎優子, 松原慶吾	舌骨上筋群と呼吸筋のレジスタンス運動が呼吸循環応答に及ぼす影響	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
永友真紀, 小手川耕平	健常児における1桁同士の足し算の獲得過程-計算方略、反応時間、関連する認知的要因からの検討-	第49回日本高次脳機能学会学術総会
飯干紀代子, 樋渡麻衣, 實地沙紀, 市川勝, 黒川容輔, 中川良尚, 中島明日佳, 畑添涼	遠隔で行う標準失語症検査の信頼性と満足度-第2報	第49回日本高次脳機能学会学術総会
畑添涼, 安藤美幸, 山本恵利香, 國徳尚子, 平田好文, 小路純史	高次脳機能障害の2症例に対する就労支援の経過	第49回日本高次脳機能学会学術総会
松尾朗, 中西恵利菜, 生駒英長, 南嶋亜由美	乳幼児健診を中心とした発達支援の在り方-大川市子ども家庭センターにおける言語聴覚士の役割-	日本コミュニケーション障害学会学術講演会
佐藤公美, 北川侑以, 坂本和也, 青木俊仁, 宇高二良	乳幼児健康診査後の個別相談の現状と課題	第51回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
佐藤公美, 青木俊仁	乳幼児健診の未来地図-専門職の役割と今後の展望-	第51回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
青木俊仁, 佐藤公美, 坂本和也, 浅岡拓希, 伊藤美幸, 近藤英司, 島田亜紀, 坂本幸, 宇高二良, 細川清人, 北村嘉章, 武田憲昭	発声条件が小児の音声の音響分析の診断精度に与える影響: 楽な発声と80dB(A)以上の発声での比較	第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会
坂本和也, 青木俊仁, 池聡, 佐藤公美, 伊藤美幸, 浅岡拓希, 坂本幸, 阿部晃治, 宇高二良, 北村嘉章	声帯結節をもつ小児の音声のケプストラム解析の有用性	第70回日本音声言語医学会総会・学術講演会
池寄寛人, 松原慶吾, 水本豪	若手言語聴覚士の職場継続要因と退職理由に関する実態調査	第26回日本言語聴覚学会
大森史隆, 橋本幸成, 水本豪, 高原佳央理, 山野貴史	軽度知的障害児一例に対する仮名1文字の書取練習-文字形態を成すキーワード絵を用いる方法の効果-	第70回日本音声言語医学会
西野一史, 森みずえ	新興感染症COVID-19流行下における看護管理者の困難の実態-パンデミック下の看護管理者の経験についての文献レビュー-	第25回日本感染看護学会学術集会
岡順子, 鳩野洋子, 戸渡洋子, 荒木善光	健康危機管理における大規模災害事案による体系的な保健師教育の取り組み	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
鳩野洋子, 鈴木浩子, 嶋津多恵子	保健所統括保健師の役割指標の妥当性と実施状況	日本地域看護学会
鳩野洋子, 鈴木浩子, 嶋津多恵子	市町村統括保健師の役割遂行状況-自治体内での位置づけに着目して-	日本公衆衛生看護学会
鶴田華恋, 鳩野洋子	社会福祉施設で発生した感染性胃腸炎集団感染に関する分析	日本公衆衛生看護学会
嶋津多恵子, 鳩野洋子, 吉野純子, 山谷麻由美, 麻原きよみ, 遠藤直子, 今野弘美, 清水雅子	プリセプター保健師研修におけるモデルプログラムの評価-年度末質問紙調査から-	日本公衆衛生看護学会
松浦仁美, 鳩野洋子	都道府県本庁における保健師等チーム派遣の後方支援: 探索的レビュー	日本公衆衛生看護学会
永井智子, 山崎真帆, 中島室法, 窪田志穂, 渡邊千秋, 斉藤瑛菜, 一色喜保, 戸渡洋子, 田村晴香, 鈴木純子	看護系大学の公衆衛生看護学を教授する教員に特徴的な教育上の課題: 若手教員を対象としたインタビュー調査	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会

令和7(2025)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
田村晴香,渡邊千秋,齊藤瑛梨,永井智子,一色喜保,神戸玲,武井勇介,山崎真帆,榎本晃子,戸渡洋子,川口恭子,窪田志穂,外間知香子,瀬川裕美,下田優子,高部さやか	集まろう,つながろう,話そう 今日から活かせる教育実践のあれこれ ～学生とともに育ちあう教育～	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
鳩野洋子,大木幸子,菅原京子,戸渡洋子,福本久美子,山口忍	保健師活動のレイト・レッスンス～水俣病における保健師活動に影響した要因から～	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
戸渡洋子,高島利,船越 和美	地域在住高齢者における口腔機能維持・向上を目的としたグループ活動の評価:主観的 効果の検討	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
荒木善光,戸渡洋子,岡順子,澤崎美香,伊山聡子	健康教育演習における看護学生の自己評価に基づく課題	日本看護学教育学会第35回学術集会
荒木善光	アルコール健康障害対策を推進する保健師の力:関係機関との連携による保健師教育の実践	第47回日本アルコール関連問題学会
荒木善光,戸渡洋子,岡順子,澤崎美香,船越和美	健康教育演習における看護学生の自己評価に基づく課題 -アンケートの自由記載からの分析-	第14回日本公衆衛生看護学会学術集会
岩村純子,友清百千	不安神経症で修学に困難さを抱える看護学生の支援過程	日本学生相談学会第43回大会
佐々木千穂,伊藤和幸,竹島久志,境信哉	先天性筋強直症による重度障害児に対するICTを用いたコミュニケーション獲得支援の試み	第13回日本難病医療ネットワーク学会/難病支援学術コンソーシアム
森本朱実,宮直美,飯山有紀,田村綾子	脳卒中後うつ病を早期発見するための脳卒中看護師の卓越した看護技術 早期発見のための観察項目	第52回 日本脳神経看護学会学術集会
飯山有紀,横井靖子,内村香代子	脳卒中患者への緩和ケアの現状と今後の展開 ― 国内外文献レビューに基づく実践的示唆 ―	第13回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会
飯山有紀,小番美鈴,内村香代子,井上加奈子,奥川洋司,中西信之,松本圭史,飯山準一	高齢者のスキンプレイルに対する薬用入浴液および薬用全身保湿乳液の効果検証	日本老年看護学会第30回学術集会
内村香代子,中尾富士子,松本千晴,西森利樹	慢性期病院で看護補助者として勤務する技能実習生の認知症に関する知識と学習ニーズ	日本老年看護学会第30回学術集会
坂本智代美,久米田幸介,中道真理子,志多田千恵,山折晋,高橋元秀	新規トキソイド固相化ELISA/ICによる破傷風防御抗体評価と応用	第71回 日本臨床検査医学会九州地方会
志多田千恵,幸田知子,黒田誠,高橋元秀	牛糞便から分離されたテトラサイクリン耐性遺伝子Tet(T2)保有破傷風菌のゲノム解析	第98回 日本細菌学会総会
宮崎誠生,清瀬紀彦,坂本智代美,志多田千恵,諸熊一則,友清和彦,高橋元秀	次世代破傷風治療薬を目指したアルパカ由来VHH抗体の開発	第4回 日本抗体学会学術大会(大宮)
Shitada C,Sakamoto C,Kumeda K,Yamaori S,Takahashi M.	ELISA-Based Alternative to the Mouse Bioassay for Tetanus Toxin	第99回 日本細菌学会総会
Sakamoto C,Kumeda K,Nakamichi M,Shitada C,Yamaori S,Takahashi M.	Tetanus Protective Antibody Assessment by Novel Tetanus Toxoid-Coated ELISA/IC	第99回 日本細菌学会総会

【地方学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
波多香織,松村剛,岡本繭,本郷恵未,藤本有紀,真壁知子,永田和代,大久保侑馬,荒木栄一,窪田直人	2型糖尿病における通常間食の代用食としての天然蜂蜜摂取の糖代謝に与える影響	第63回日本糖尿病学会九州地方会
松村剛	糖尿病における慢性炎症のメカニズム	第63回日本糖尿病学会九州地方会
木永丈翔,安藤愛華,岡崎萌花,瀧川未来,増田彩乃,松岡瑞穂,元島優美,西田彩蓮,川田空輝,原口日菜子,荒尾ほほみ,上妻行則	体外循環で使用される人工肺内に生じる血栓の防止を目指した基礎研究	2025年度日臨技九州支部医学検査学会(第59回)
松本佳代,永田千鶴,清永麻子	「介護事業所での看取りの実践ガイド」の作成～フォーカスグループディスカッションでの語りの分析から～	第38回日本看護研究学会中国四国地方会学術集会
清永麻子,永田千鶴,太田友子,松本佳代,澤崎美香	介護事業所における看取り教育プログラムの効果の検証 ―混合研究デザイン―	第38回日本看護研究学会中国四国地方会学術集会
山本貴大,久保高明	終末期がん患者の嚥下機能と体幹筋量、仙骨傾斜角および食事姿勢との関係:後方視的観察研究	第27回熊本県理学療法士学会
申敏哲,福永貴之,小牧龍二	行動量計と分子生物学的手法を用いたベンゾピレン中毒ラットに対する 5-デアザフラビン誘導 体の効果検討	第76回西日本生理学会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
小牧龍二, 福永貴之, 申敏哲	舌への体性感覚刺激がADHDモデルラットに及ぼす影響	第76回西日本生理学会
濱崎寛臣, 本田啓太, 野口大助, 桑原萌, 三輪俊博, 三宮克彦, 中西俊人	深度センサーを用いた マーカーレス3次元動作解析システムによる脳卒中片麻痺患者の歩行動作解析 1症例における臨床応用の報告	第27回熊本県理学療法士学会
嶋村剛史, 宮崎宣丞, 本田啓太	マーカーレスモーションキャプチャを用いた動画解析による起立・着座動作解析手法の検証	九州理学療法士学会大会 2025 in 大分
吉瀬陽, 前田亮介, 井出睦, 松尾崇史, 東登志夫	反復性マーキングを認めた重度左半側空間無視の2症例 ― 回復過程における個別性の検討 ―	第29回福岡県作業療法学会
阿南君佳, 壺岐尾優太, 吉田佳弘	急激な ADL の低下により精神的に不安定であった終末期乳がん患者に対し, 目標を明確にした介入を行ったことで, 症例の希望を実現することができた一例	九州作業療法学会2025in 宮崎
大塚裕一, 宮本恵美	失語症者の名詞意味ネットワーク構造～文想起課題を用いて～	令和7年熊本県言語聴覚士会学術研究会
洲川貴大, 池寄寛人	注意解放を意識した訓練によって半側空間無視症状に対して即時効果を認めた一例	第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会宮崎大会
久富江子, 中下亜希子, 徳永恵子, 松原慶吾, 田上このみ, 中村謙, 津野田尚子	嚥下プロジェクトの取り組み	第24回九州ブロック介護老人保健施設大会with熊本
飯田一成, 松崎優子, 丸岡由佳, 平江満充帆, 松原慶吾	舌の前方および側方のレジスタンス運動が舌骨上筋群の筋活動量にもたらす効果	第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 宮崎大会
坂本和也, 青木俊仁, 池聡, 佐藤公美, 伊藤美幸, 浅岡拓希, 宇高二良	声帯結節をもつ小児の音声のケプストラム解析の有用性	第1回プロフェッショナル・リハビリテーション学会学術集会
佐藤公美, 青木俊仁, 北川侑以, 坂本和也, 宇高二良	乳幼児健診の聴覚・言語検診に言語聴覚士が参画する意義と今後の課題	第1回プロフェッショナル・リハビリテーション学会学術集会
白川健太郎, 池寄寛人, 水本豪	一側性難聴者における障害認識と社会生活上の課題に関する検討	第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 宮崎大会
池寄寛人, 松原慶吾, 宮本恵美, 畑添涼, 平江満充帆, 水本豪	言語聴覚士養成課程における臨床実習形態と実習指導者の自己効力感との関連	第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 宮崎大会
田中忠理	Ulysses における病とケア ―第18 挿話“Penelope”を中心に―	日本英文学会 中国四国支部 第77回大会
高崎清香, 丸森有紗, 岡順子, 木村理恵, 前田奈津美, 田浦静佳, 谷口慶太, 宮島美希, 河野沙織	避けられない分散配置をポジティブにとらえる ～マイナスイメージからの転換～	第29回熊本県国保地域医療学会
坂本智代美, 久米田幸介, 志多田千恵, 山折晋, 高橋元秀	破傷風抗体測定法における新規ELISAおよびICの有用性の検討	第71回 日本臨床検査医学会九州地方会

【研究会・シンポジウム等】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Tomita S, Fukuchi Y, Ito T, Anraku K.	Anti-cancer activity of the cell membrane-permeable phytic acid prodrug for SCLC	The 10th Allied Health Science Symposium
Nishijima T, Fukuda T, Aoki M, Anraku K.	Studies on drug discovery involving the binding of the HIV-1 Gag MA domain to cardiolipin	The 10th Allied Health Science Symposium
武富由美子, 熊谷有記, 坂本麻衣子, 田淵康子	ピア・サポートを受けたがんサバイバーががんと診断された夫を支える過程	第48回 日本死の臨床研究会年次大会
Miwa F, Kuraoka Y, Yoshitomi Y.	Training for Nursing Administrators with the Goal of Organizational Transformation: Implementing a Training Program to Facilitate Changes in Wards for Nurse Managers.	The 10th allied health science symposium

令和7(2025)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
田中聡	マウス生殖腺と生殖細胞の発生を制御する分子機構について	日本動物学会・九州沖縄植物学会・日本生態学会 三学会合同熊本例会
Sakata R, <u>Doi A.</u>	A Novel Method for Transcranial Magnetic Stimulation-Induced Motor Evoked Potentials in Awake Small Animals	The 10th Allied Health Science Symposium
Okamoto A, <u>Doi A.</u> ,Fukuda K,Jodoi R,Nakao Y,Takeshita Y,Jyono M,Kiyoura K.	Graded Cycling Exercise Induces Differential Changes in Transcortical Stimulation-Evoked Motor Potentials and EEG Power	The 10th Allied Health Science Symposium
Oi T,Tanaka K, <u>Doi A.</u>	The Impact of Age and Hemodialysis on Prognosis in Chronic Limb Threatening Ischemia	The 10th Allied Health Science Symposium
Iwashita Y,Towatarai Y,Tamechika T, <u>Araki Y.</u> , <u>Tanaka E.</u> ,Omori H.	Readiness for Aging in Place at Home	The 10th Allied Health Science Symposium
吉岐尾優太	がん作業療法研究を実施するためのヒントとコツ	第2回日本がん作業療法研究会
松原慶吾	のどの動きに対するリハビリテーション	第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
松原慶吾	シンポジウムⅡ:学生教育 「学校教育 現状と今後に向けて 養成校の立場より(仮)」	第14回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 宮崎大会
松原慶吾	嚥下関連筋群のサルコペニアの評価と対応	熊本件言語聴覚士会:日本言語聴覚士協会 生涯学習プログラム「専門講座」
藤本教寛,坂本真人, <u>竹永和典</u>	余剰次元のカシミアエネルギーによるクォークのフレーバー構造の力学的決定	Workshop on Window of Dark Universe in IZUMO
藤本教寛,坂本真人, <u>竹永和典</u>	カシミアエネルギーの最小化によるクォークのフレーバー構造の決定	素粒子物理学の進展2025 (PPP2025)
竹熊千晶,市原美穂	暮らしの中で死に逝くこと～ホームホスピスわれもこの活動～	2025Co-living care 共生の家国際論壇
竹熊千晶	「のさり」からみる老いの行方～ホームホスピスわれもこの活動～	熊日公聴会
竹熊千晶,市原美穂,黒岩雄二	暮らしの中で死に逝くこと	2025Co-living care 共生の家国際論壇
佐々木千穂	意思伝達装置の導入促進のために	日本ALS協会熊本支部総会
佐々木千穂	マルチステージに対応した災害対策 ～共災の論理より～	先進建設防災・減災技術フェアin熊本2025
佐々木千穂	コミュニケーション機器導入から見えること	令和7年 第3回 佐賀県難病医療提供体制整備事業 難病従事者研修会
志多田千恵,幸田知子,黒田誠,高橋元秀	牛糞便から分離されたテトラサイクリン耐性遺伝子Tet(T2)保有破傷風菌のゲノム解析	第45回 阿蘇シンポジウム



看護学科4年
山浦 陽菜さん

英語力に自信がなく、新しい環境に飛び込むことに大きな不安を抱えながらアメリカへ留学しました。しかし、実際に生活してみると毎日が新鮮で、多くの刺激を受けながら充実した日々を送ることができました。現地では様々な国籍の人々と関わり、言葉の違いや文化の違いを実感するとともに、多様な価値観や考え方に触れることができました。また、日本とは異なる生活習慣や人との関わり方を知り、自分の当たり前が当たり前ではないことを学びました。今回の留学を通して、語学力だけでなく主体性や行動力も高めることができ、自身の成長に繋がったと感じています。



Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>

○2025年度末蔵書数

図書8万4千冊、電子ブック1,100タイトル、雑誌979誌、電子ジャーナル1,759誌、その他映像や文献検索データベースを契約しています。利用状況に合わせた電子リソースの契約を行い、冊子体とともにハイブリット図書館として、館外からの利用にも供した教育・研究・学修のための学術情報資源の充実を図っています。

○医療系データベースの利用倍増

「医書.jp」の利用が2025年度は、2024年度の1.8倍と急増しました。医療系出版社の電子ジャーナル131誌が利用できます。スマホやパソコンで学内外から利用できるため、学外実習先などからも学修や研究に活用できます。他にも「医中誌Web」「メディカルオンライン」などのデータベースも利用可能です。

○一般の方へのサービス

図書館の通常利用については、図書館のホームページをご覧ください。また、一般の方への通常サービス（医療系図書資料の閲覧）に加えて、本学へご寄付いただいた方への返礼品として、1年間図書館利用証をお贈りしています。また、本学卒業生が本学へご寄付いただいた際は、通常利用プラスαの返礼品をお贈りしています。



図書館蔵書の中から

新着電子リソースのご紹介

—『学びの達人』全3巻 日本図書館協会監修 丸善出版 2026.4—

大学で学ぶことの意味や図書館の活用法、情報リテラシー、レポート・論文の書き方まで、ドラマを交えながら動画でわかりやすく解説

- 第1巻: 図書館の使い方・情報の活用
- 第2巻: レポート・論文の書き方（テーマ設定と情報の探索）
- 第3巻: レポート・論文の書き方（情報の分析と考察）



熊本保健科学大学学術情報リポジトリは本学図書館ホームページ、または、こちらのURLからご利用ください。
<https://khsu.repo.nii.ac.jp/>



基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

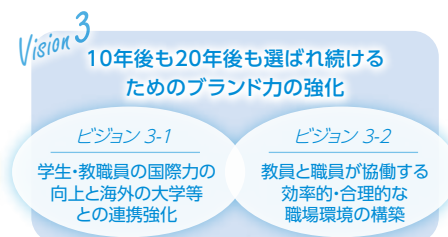
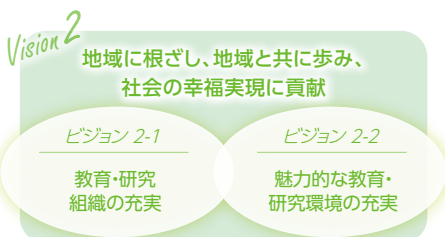
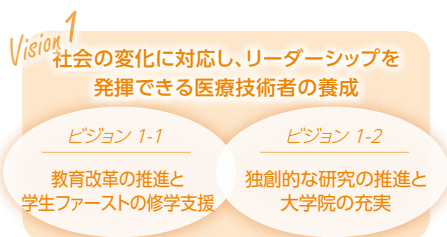
1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富み、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる



編集
後記

今年は冬季五輪やサッカーワールドカップなど注目のスポーツイベントが目白押し。近い将来、こうした大舞台でスポーツリハビリテーションコースの卒業生が活躍する姿に出会えるかもしれないと思うと楽しみです。

令和9年度 熊本保健科学大学 入試概要

■ 募集人員

学 部	学 科 / 専 攻	募集人員	合 計
保健科学部	医学検査学科	100名	340名
	看護学科	100名	
	リハビリテーション学科	60名	
	理学療法学専攻	40名	
	作業療法学専攻	40名	

■ 入試区分別募集人員 (保健科学部)

入試区分	総合型選抜		学校推薦型選抜			一般選抜		
	リーダーシップ型	社会人	指定校	公募	離島枠	一般	共通テスト利用・前期	共通テスト利用・後期
医学検査学科	12名	若干名	25名	25名	若干名	33名	5名	若干名
看護学科	15名	若干名	25名	25名	若干名	30名	5名	若干名
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	12名	若干名	15名	15名	若干名	14名	4名	若干名
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	8名	若干名	10名	10名	若干名	9名	3名	若干名
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	8名	若干名	10名	10名	若干名	9名	3名	若干名
合 計	55名	若干名	85名	85名	若干名	95名	20名	若干名

*総合型選抜および学校推薦型選抜において、選抜結果によっては、合格者数が募集人員に達しない場合があります。その欠員については一般選抜の募集人員に加えます。

■ 入学試験日程一覧 (保健科学部)

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	入学手続
総合型選抜	リーダーシップ型 一次選考	令和8年 9月 1日(火) ～ 9月 8日(火)	9月18日(金)	11月 2日(月) ～11月16日(月)
	二次選考	10月10日(土)	11月 2日(月)	12月 3日(木) ～12月17日(木)
	社会人	令和8年10月 1日(木) ～10月 9日(金)	11月 7日(土)	12月 3日(木) ～12月17日(木)
選学校推薦型選抜	指定校	令和8年11月 2日(月) ～11月11日(水)	11月21日(土)	12月 3日(木) ～12月17日(木)
	公 募			
	離島枠			
一般選抜	一 般	令和9年 1月 4日(月) ～ 1月26日(火)	2月 4日(木)	2月18日(木) ～ 2月25日(木)
	共通テスト利用・前期			
	共通テスト利用・後期	令和9年 2月18日(木) ～ 2月25日(木)	3月 5日(金)	3月12日(金) ～ 3月17日(水)

入試に関するお問い合わせ

熊本保健科学大学 入試・広報課 TEL.096-275-2215 (直通)

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325

E-mail: nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

■ 入学試験日程一覧 (大学院・専攻科・別科・キャリア教育研修センター)

大学院入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和8年 10月19日(月) ～10月28日(水)	11月7日(土)	11月20日(金)	15名
出願資格審査	令和8年9月28日(月)～10月7日(水)			
社会人選抜 (Ⅰ期)	令和8年 10月19日(月) ～10月28日(水)	11月7日(土)	11月20日(金)	
出願資格審査	令和9年1月18日(月)～1月27日(水)			
一般選抜	令和9年 2月1日(月) ～2月9日(火)	2月20日(土)	2月26日(金)	
出願資格審査	令和9年1月18日(月)～1月27日(水)			
社会人選抜 (Ⅱ期)	令和9年 2月1日(月) ～2月9日(火)	2月20日(土)	2月26日(金)	
公衆衛生看護学専攻 入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和8年 10月19日(月) ～10月28日(水)	11月7日(土)	11月17日(火)	10名
一般選抜	令和8年 11月17日(火) ～11月25日(水)	12月5日(土)	12月15日(火)	10名
助産別科入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和8年 10月19日(月) ～10月28日(水)	11月7日(土)	11月17日(火)	10名
一般選抜	令和8年 11月17日(火) ～11月25日(水)	12月5日(土)	12月15日(火)	10名
キャリア教育研修センター 入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
認定看護師教育課程 (脳卒中看護分野) (認知症看護分野)	令和8年 11月16日(月) ～12月9日(水)	令和9年 1月9日(土)	1月19日(火)	(脳卒中) 7名 (認知症) 12名
特定行為研修課程	令和8年 11月16日(月) ～12月9日(水)	令和9年 1月9日(土)	1月19日(火)	3名

「熊本大夢基金」 お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊本大夢基金」への寄付をお願いしております。令和7年度後期におきましても10件67万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和7年度後期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)
赤池紀生様 相良勝郎様 杉光定則様 中山由紀子様 (医)緑会米盛病院様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

御寄付の申込方法は「インターネットによる方法」と「書面による方法」の2つがあります。詳細につきましては公式WEBサイト<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/about/donation.html>を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

OPEN CAMPUS 2026

第1回 7/19(土) 第2回 8/23(土)

【開催時間】12:30～14:00

この体験が、夢への第一歩

オープンキャンパス
お申込みはこちらから

Japan Institution for Higher Education Evaluation

JIHEE

since 2004

III

UNIVERSITY

2020.4-2027.3

熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付で同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。